フロンティアサイエンス学部　履修要項

目　　次

フロンティアサイエンス学部 学年暦 …… 2

甲南大学学則…… 3

Ⅰ．はじめに…… 15

Ⅱ．履修について…… 23

Ⅲ．履修登録・試験・成績について…… 39

Ⅳ．重要なメッセージ

～ポートアイランドキャンパスでの学びについて～ …… 45

Ⅴ．時間割…… 57

Ⅵ．ポートアイランドキャンパス Ｆ －1号館フロアマップ

岡本キャンパスマップ…… 65

Ⅶ．関連諸規程…… 71

Ⅷ．諸願、届、証明書の事務取扱一覧…… 93

〔ポートアイランドキャンパス〕平成26年度（2014年度）学年暦

前期

	日	月	火	水	木	金	土	
								2014年
4月			1	2	3	4	5	1日（火）入学宣誓式
	6	7	8	9	10	11	12	5日（土）授業開始
	13	14	15	16	17	18	19	19日（土）月曜日の授業実施
	20	21	22	23	24	25	26	21日（月）学園創立記念日
	27	28	29	30				26日（土）火曜日の授業実施
5月					1	2	3	
	4	5	6	7	8	9	10	10日（土）月曜日の授業実施
	11	12	13	14	15	16	17	24日（土）火曜日の授業実施
	18	19	20	21	22	23	24	【30日,31日A期試験】
	25	26	27	28	29	30	31	
6月	1	2	3	4	5	6	7	
	8	9	10	11	12	13	14	
	15	16	17	18	19	20	21	
	22	23	24	25	26	27	28	
	29	30						
7月			1	2	3	4	5	19日（土）月曜日の授業実施
	6	7	8	9	10	11	12	23日（水）金曜日の授業実施
	13	14	15	16	17	18	19	
	20	21	22	23	24	25	26	24日（木）前期（B期）試験
	27	28	29	30	31			
8月						1	2	2日（土）
	3	4	5	6	7	8	9	3日（日）夏期休業
	10	11	12	13	14	15	16	
	17	18	19	20	21	22	23	
	24	25	26	27	28	29	30	
	31							
9月		1	2	3	4	5	6	
	7	8	9	10	11	12	13	
	14	15	16					18日（木）

後期

	日	月	火	水	木	金	土	
9月				17	18	19	20	19日（金）後期授業開始
	21	22	23	24	25	26	27	20日（土）前期末学位記授与式
	28	29	30					27日（土）火曜日の授業実施
10月				1	2	3	4	
	5	6	7	8	9	10	11	11日（土）月曜日の授業実施
	12	13	14	15	16	17	18	
	19	20	21	22	23	24	25	
	26	27	28	29	30	31		
11月							1	1日（土）月曜日の授業実施
	2	3	4	5	6	7	8	
	9	10	11	12	13	14	15	【12日,13日C期試験】
	16	17	18	19	20	21	22	22日（土）大学祭（予定）
	23	24	25	26	27	28	29	24日（月）※授業は実施しない
	30							29日（土）月曜日の授業実施
12月		1	2	3	4	5	6	
	7	8	9	10	11	12	13	
	14	15	16	17	18	19	20	20日（土）火曜日の授業実施
	21	22	23	24	25	26	27	25日（木）年内授業一旦終了
	28	29	30	31				冬期休業（12月26日～1月4日）
1月					1	2	3	2015年
	4	5	6	7	8	9	10	5日（月）授業再開
	11	12	13	14	15	16	17	10日（土）月曜日の授業実施
	18	19	20	21	22	23	24	16日（金）補講予備日
	25	26	27	28	29	30	31	【17、18日はセンター入試】
								19日（月）後期（D期）試験
								24日（土）
2月	1	2	3	4	5	6	7	
	8	9	10	11	12	13	14	
	15	16	17	18	19	20	21	
	22	23	24	25	26	27	28	
3月	1	2	3	4	5	6	7	
	8	9	10	11	12	13	14	
	15	16	17	18	19	20	21	
	22	23	24	25	26	27	28	25日（水）学位記授与式
	29	30	31					

※注意
2014年4月19日（土）は、月曜日の授業を実施いたします。
2014年4月26日（土）は、火曜日の授業を実施いたします。
2014年5月10日（土）は、月曜日の授業を実施いたします。
2014年5月24日（土）は、火曜日の授業を実施いたします。
2014年7月19日（土）は、月曜日の授業を実施いたします。
2014年7月23日（水）は、金曜日の授業を実施いたします。
2014年9月27日（土）は、火曜日の授業を実施いたします。
2014年10月11日（土）は、月曜日の授業を実施いたします。
2014年11月1日（土）は、月曜日の授業を実施いたします。
2014年11月29日（土）は、月曜日の授業を実施いたします。
2014年12月20日（土）は、火曜日の授業を実施いたします。
2015年1月10日（土）は、月曜日の授業を実施いたします。

※祝日は授業を実施いたしません。

甲南大学学則

甲南大学学則（抄）

第１章　総　　則

第１条　本大学は、教育基本法（昭和22年法律第25号）及び学校教育法（昭和22年法律第26号）に則り、学術の府として広くかつ深く学芸を教授研究するとともに、学生一人ひとりの天賦の特性を啓発し、人物教育率先の甲南学園建学の理念を実現することを目的とする。

第２章　組　　織

第２条　本大学は、学部及び大学院よりなる。

第３条　本大学に次の学部・学科を置く。

学部	学科
文学部	日本語日本文学科
	英語英米文学科
	社会学科
	人間科学科
	歴史文化学科
理工学部	物理学科
	生物学科
	機能分子化学科
経済学部	経済学科
法学部	法学科
経営学部	経営学科
知能情報学部	知能情報学科
マネジメント創造学部	マネジメント創造学科
フロンティアサイエンス学部	生命化学科

第３条の２　各学部・学科における人材養成上の目的と学生に修得させるべき能力等の教育目標は、次のとおりとする。

学　　部	学　　科	人材育成上の目的と学生に修得させるべき能力等の教育目標
文学部	幅広く深い教養を基盤に、人文科学の専門分野における調査、研究技量を磨く経験を通して、問題を見出し、考え、成果を言葉で表現する力を形成する。それによって、仕事を含む人生の様々な活動に発生する問題を主体的に解決できる人材を社会に送り出す。	
	日本語日本文学科	古典・近現代文学・日本語学・日本語教育学等のバランスの取れた教育・研究を通して、社会での活動の基盤である日本語の理解力・表現力を鍛えることを目標とする。
	英語英米文学科	実践的語学教育と並行して英語学及び英米の文化・文学の教育を行い、英語圏文化の深い理解に裏打ちされた英語運用能力を持つ人材を養成し、国際化する社会の要請に応える。
	社会学科	情報化、国際化の進展によつて急速に変化し、多様性や不確実性が高まつている社会の中で必要とされる「自ら調査・分析・表現・発信する実証的・実践的な態度と能力」を涵養する。
	人間科学科	イメージ、言語、身体のコンセプトを柱として、人間表現領域（環境・芸術・思想など）及び心理臨床領域の理論と実践を学び、社会の諸問題を多角的に捉え、柔軟に問題解決できる人材育成を目指す。
	歴史文化学科	人類がこれまで蓄積してきた有形・無形の文化遺産及び歴史の中における生活の場としての環境と人類との交流について歴史学、地理学・民俗学の分野から探求し、これら各分野を横断する総合的立場から教育を行う。
理工学部	自然科学の強固な学問的土台を身につけて、純粋理学と応用科学を融合させることのできる能力を養い、時代の変化や科学・技術の新たな展開に対応して創造性を発揮できる人材の育成を目指す。	
	物理学科	時代の変化や科学・技術の新たな展開に対応して、問題の解決に果敢に挑み、創造性を発揮し、国際社会に貢献できる人材の養成を目的とし、物理学の基本的な知識及び論理的思考法・手法を講義と実験・実習科目による相補的な積み上げ方式によって修得させ、卒業研究を通して総合的な問題解決能力を養う。
	生物学科	今日の社会が直面する生命や環境等に関わる諸問題を正しく理解し、それらの解決に貢献できる国際的視野を持った人材の養成を目的とし、そのために必要な現代生物学の専門知識と技術及びそれらを充分に活用するための思考力を修得させる。
	機能分子化学科	科学技術に携わる者に求められる責任感と倫理観を有し、化学の専門知識並びに自然科学に対する柔軟な思考力を身につけた人材の養成を目的とし、化学の基礎的な知識・豊富な経験に基づく課題設定能力・解決能力を得て、現代社会の要請に応えることのできる能力を獲得させる。
経済学部	経済学科	経済学の学習を通じて、変化の激しい経済社会で充実した活動ができる知性と創造力を備えた人材を養成する。これらの人材養成上、学生が修得すべき能力として、経済・社会問題を的確に捉える能力、筋道を立てて問題を考える能力、自らの力で解決策を示す能力を求める。
法学部	法学科	法曹・行政・経済をはじめ社会の様々な分野で指導的な役割を担うことができる人材を養成するため、学生の個性尊重を旨として、法及び政治に関する専門知識の修得と思考力の涵養を通じて、個々の学生の論理的な思考力と柔軟な応用力を培うことを教育目標とする。
経営学部	経営学科	ヒト・モノ・カネ・情報等からなる組織（企業）の存続・発展のあり方について、自律的な洞察力を有し、社会に資するビジネスパーソンの養成を目的とする。このために学生が修得すべき能力として、次の各能力を求める。 ⑴　幅広い教養に裏付けられた経営学の知識・理解力 ⑵　各種スキルと論理的思考力に支えられた経営問題の発見・説明・解決力 ⑶　ビジネスパーソンに必要な社会的協調力と自発的遂行力及び倫理的責任力 ⑷　トータルな人間性と豊かな個性に基づいた社会的貢献力

知能情報学部	知能情報学科	人間力をベースに、感性・知性で高度国際情報社会におけるリーダーシップがとれる人材の育成を目指す。そのため、数学的基礎学力、知能情報学における専門知識、効果的な発表能力並びにコミュニケーション能力の修得を目標とする。
マネジメント創造学部	マネジメント創造学科	自ら学ぶ力を涵養し、営利、非営利、パブリックなどいずれの分野にあつても、社会的責任を創造的に果たしていくマネジメント能力を開発し、世界に貢献しうる人物育成を目指す。
フロンティアサイエンス学部	生命化学科	教育・研究対象の中心に「生命化学」を据え、バイオテクノロジー、ナノテクノロジー及びそれらの融合領域であるナノバイオに関する知識と技能を修得させることにより、社会の発展、福祉の増進のためとくに生命化学分野におけるフロンティア開発に資する人材を養成する。

第４条　省略

第５条　大学院に関する規程は、別に定める。

第３章　授業科目及び履修方法

第６条　本学の授業科目を広域副専攻科目、国際言語文化科目、外国語科目、保健体育科目、一般情報科目、単位互換科目、西宮市大学共通単位講座、日本語科目、国際交流科目及び専門教育科目に分ける。

２　広域副専攻科目、国際言語文化科目、外国語科目、保健体育科目及び一般情報科目の授業科目及び単位数は、文学部、理工学部、経済学部、法学部、経営学部及び知能情報学部における各学部共通とし、別表第１のとおりとする。ただし、広域副専攻科目と国際言語文化科目は、そのいずれかを履修するものとする。

３　単位互換科目及び西宮市大学共通単位講座の授業科目及び単位数は、別表第１のとおりとする。

４　日本語科目及び国際交流科目の授業科目及び単位数は、別表第１のとおりとする。

５　文学部、理工学部、経済学部、法学部、経営学部及び知能情報学部における専門教育科目の授業科目、単位数、必修・選択必修等の区別は、別表第２の（１）のとおりとする。

６　マネジメント創造学部の授業科目及び単位数は、別表第２の（３）のとおりとする。

７　フロンティアサイエンス学部の授業科目及び単位数は、別表第２の（４）のとおりとする。

８　卒業に必要な単位数は、別表第２の（１）、別表第２の（３）及び別表第２の（４）のとおりとする。

第７条　本大学の修業年限は、４年とする。

第８条　中学校及び高等学校の教育職員免許状を得るために必要な教職に関する科目、教科又は教職に関する科目の授業科目及び単位数は、別表第３のとおりとする。

第９条　教育職員免許状を得るための資格を得ようとする者は、別に定める教育職員養成課程に関する規程に従い、必要な単位を修得しなければならない。

２　本大学において、取得できる免許状の種類及び免許教科は、次のとおりとする。

学部	学科	免許教科	免許状の種類
文学部	日本語日本文学科	国語	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状
	英語英米文学科	英語	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状
	社会学科	社会	中学校教諭一種免許状
		公民	高等学校教諭一種免許状
	人間科学科	社会	中学校教諭一種免許状
		地理歴史	高等学校教諭一種免許状
		公民	
	歴史文化学科	社会	中学校教諭一種免許状
		地理歴史	高等学校教諭一種免許状
理工学部	物理学科 生物学科 機能分子化学科	理科	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状
経済学部	経済学科	社会	中学校教諭一種免許状
		地理歴史	高等学校教諭一種免許状
		公民	
法学部	法学科	社会	中学校教諭一種免許状
		地理歴史	高等学校教諭一種免許状
		公民	
経営学部	経営学科	社会	中学校教諭一種免許状
		公民	高等学校教諭一種免許状
		商業	
知能情報学部	知能情報学科	数学	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状
		情報	高等学校教諭一種免許状

第10条　図書館司書又は学校図書館司書教諭の資格を得ようとする者は、別表第４の（１）に定めるところに従い、必要な専門教育科目の単位を修得しなければならない。

第10条の２ 博物館学芸員の資格を得ようとする者は、別表第４の（２）に定めるところに従い、必要な専門教育科目の単位を修得しなければならない。

第11条　各授業科目の単位数は、１単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもつて構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数を計算する。

⑴　講義及び演習については、15時間から30時間までの範囲の授業をもつて１単位とする。

⑵　実験、実習及び実技については、30時間から45時間までの範囲の授業をもつて１単位とする。

⑶　一つの授業科目のなかで、講義、演習、実験、実習又は実技のうち２以上の方法の併用により行う場合の授業科目については、その組み合わせに応じ、前２号に規定する基準を考慮して定める時間の授業をもつて１単位とする。

２　前項の規定にかかわらず、卒業論文、卒業研究及び卒業実験等の授業科目については、これらの学修の成果を評価して単位を授与することが適切と認められる場合には、これらに必要な学修等を考慮して単位数を定めることができる。

第11条の２ 授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。

２　本大学は、前項の授業を、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

３　本大学は、第１項の授業を、外国において履修させることができる。前項の規定により、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させる場合についても、同様とする。

４　本大学は、第１項の授業の一部を、校舎及び附属施設以外の場所で行うことができる。

第11条の３ 学生に対して、授業の方法及び内容並びに１年間の授業の計画をあらかじめ明示するものとする。

２　学修の成果に係る評価及び卒業の認定に当たつては、客観性を確保するため、学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに、当該基準にしたがつて適切に行うものとする。

第４章　試験及び学士の学位

第12条　学生は、学期の初めに履修を希望する授業科目を届け出て承認を得なければならない。

第12条の２ 教育上有益と認めるときは、他の大学（外国の大学を含む。）との協議に基づき、学生に当該大学の授業科目を履修させることがある。

２　前項により修得した単位は、60単位を限度として、本大学において修得した単位とみなすことができる。

３　第１項の規定に基づく外国留学（以下「留学」という。）に関しては、この学則に定めるもののほか別に定める。

第13条 単位の認定は、試験その他適当な方法による。ただし、実験、実習、演習、体育の実技等は、平常の成績によることができる。

２　授業科目の成績の評価は、秀（ＡＡ）・優（Ａ）・良（Ｂ）・可（Ｃ）・不可（Ｄ）の５種とし、その評点は、100点を満点として次のとおり定める。

秀	（ＡＡ）	90点以上	合　格
優	（Ａ）	80点以上90点未満	合　格
良	（Ｂ）	70点以上80点未満	合　格
可	（Ｃ）	60点以上70点未満	合　格
不可	（Ｄ）	60点未満	不合格

第14条　試験は、原則として学期末又は学年末に行う。

第15条　削除

第16条　４年以上在学して第６条に掲げられた所定の授業科目及び履修方法により卒業に必要な単位数を修得した者には、学部教授会及び合同教授会の議を経て、学長が卒業を認定し、卒業証書・学位記を授与する。

２　本大学に３年以上在学した学生が、別に定める規程に従い卒業に必要な単位を優秀な成績で修得したと認められる場合には、第７条に規定する修業年限の特例扱いとして学部教授会及び合同教授会の議を経て、学長が卒業を認定し、卒業証書・学位記を授与することができる。

第17条　本大学を卒業した者には、学部及び学科に応じて、次のとおり学士の学位を授与する。

文学部	日本語日本文学科	学士（文　学）
	英語英米文学科	学士（文　学）
	社会学科	学士（社会学）
	人間科学科	学士（文　学）
	歴史文化学科	学士（文　学）
理工学部	物理学科	学士（理　学）又は学士（理工学）
	生物学科	学士（理　学）
	機能分子化学科	学士（理工学）
経済学部	経済学科	学士（経済学）
法学部	法学科	学士（法　学）
経営学部	経営学科	学士（経営学）
知能情報学部	知能情報学科	学士（工　学）、学士（理　学）又は学士（情報学）
マネジメント創造学部	マネジメント創造学科	学士（マネジメント）
フロンティアサイエンス学部	生命化学科	学士（理工学）

第５章　学年、学期及び休業日

第18条　学年は、４月１日に始まり翌年３月31日に終わる。

第19条　学年は、前期・後期の２学期に分ける。

前期　４月１日～９月16日

後期　９月17日～３月31日

第20条　休業日を次のとおり定める。

⑴　日曜日

⑵　国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日

⑶　本学園創立記念日（４月21日）

⑷　夏期休業日、冬期休業日は学年暦によるものとする。

２　学長は、学年暦編成上必要ある場合は、前項の休業日を授業日に変更することができる。

３　学長は、必要に応じ臨時に授業を休止又は変更することができる。

第６章　入学、転学部、留学、休学、除籍及び退学

第21条　入学の時期は、学年初めとする。

第22条　本大学の第１年次に入学する資格のある者は、次の各号のいずれかに該当するものとする。

⑴　高等学校又は中等教育学校の卒業者

⑵　通常の課程による12年の学校教育を修了した者（通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者を含む。）

⑶　外国において学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者

⑷　文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者

⑸　文部科学大臣の指定した者

⑹　高等学校卒業程度認定試験規則（平成17年文部科学省令第１号）による高等学校卒業程度認定試験に合格した者（同規則附則第２条の規定による廃止前の大学入学資格検定規程（昭和26年文部省令第13号）により大学入学資格検定に合格した者を含む。）

⑺　その他相当の年齢に達し、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると本大学が認めた者

第23条　入学は、選考によつて決定する。

第24条　選考によつて入学を決定された者は、所定の期日までに入学に必要な手続をしなければならない。

第25条　本大学への編入学を願い出る者があるときは、選考の上、入学を許可することができる。

２　編入学についての細則は、別に定める。

第26条　本大学を卒業し、さらに本大学の他の学部に学士入学を願い出る者は、選考の上、許可することができる。

第27条　他の学部へ転学部を願い出る者は、選考の上、許可することができる。

第27条の２　第12条の２の規定に基づく留学を希望する者は、願い出て許可を受けなければならない。

２　前項により留学をした期間は、第16条及び第29条に規定する在学期間に算入する。

第28条　疾病その他やむを得ない理由により休学を願い出たときは、許可することができる。

２　疾病のため修学に適さないと認められる者については、休学を命ずることがある。

３　海外渡航の期間が６箇月以上にわたるときは、休学しなければならない。

４　休学の期間は、継続して２年を、通算して４年を超えることができない。

５　休学期間中に復学を願い出たときは、許可することができる。

６　休学の期間は、第16条及び次条に規定する在学期間に算入しない。

第29条　本大学に在学する期間は、８年を超えることができない。

２　在学期間が８年を超える場合は、除籍する。

第30条　学費を納付しない者は、除籍する。ただし、１年以内に復籍を願い出たとき、又は１年経過後再入学を願い出たときは、審議の上、許可することができる。

第31条　疾病その他やむを得ない理由によつて退学しようとするときは、許可を受けなければならない。

第32条　前条により退学した者が再入学を願い出たときは、選考の上、許可することができる。

第33条　他の大学へ入学又は転学を願い出ようとする者は、学長の許可を受けなければならない。

第７章　科目等履修生、研究生、聴講生、特別聴講生及び高大連携聴講生

第34条　特定の授業科目について履修を願い出る者があるときは、選考の上、科目等履修生として許可することができる。

２　科目等履修生規程については、別に定める。

第34条の２　本大学専任教員の指導を受け、特定の事項について研究をしようとする者があるときは、選考の上、研究生として許可することができる。

２　研究生規程については、別に定める。

第34条の３　特定の授業科目について聴講を願い出る者があるときは、選考の上、聴講生として許可することができる。

２　聴講生規程については、別に定める。

第34条の４　他の大学との協議に基づき、本大学の授業科目を履修させる場合には、選考の上、特別聴講生として許可することができる。

第34条の５　甲南高等学校との協議及び教育委員会又は高等学校との協定に基づき、当該高校生が本大学が指定する授業科目の聴講を願い出る場合は、選考の上、高大連携聴講生として許可することができる。

２　高大連携聴講生については、別に定める。

第７章の２　外国人留学生

第34条の６　出入国管理及び難民認定法（昭和26年政令第319号）に定める留学という在留資格の取得を必要とする者が、本大学に入学しようとする場合は、選考の上、外国人留学生として、入学を許可することができる。

２　外国人留学生の受入れについては、別に定める。

第８章　賞　　罰

第35条　学業、人物、文化芸術、運動等の分野において優秀な者は表彰する。

第36条　学生に本大学の規則に違反し、又は学生の本分にもとる行為があると認めたときは、合同教授会の議を経て、懲戒を加える。

第37条　懲戒処分は、謹慎、停学及び退学とする。退学は、次の各号のいずれかに該当する者について行う。

⑴　性行不良で改善の見込みがないと認められる者

⑵　学力劣等で成業の見込みがないと認められる者

⑶　正当な理由がなくて出席が常でない者

⑷　本大学の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者

第９章　入学受験料、科目等履修生検定料、研究生申請料、聴講生検定料、入学金、授業料、施設設備費、設備充実費、教育充実費、研究資料費、実験費、実習費、復籍料、在籍料、科目等履修料、研究生登録料及び聴講料

第38条　本大学に入学を願い出る者は、別表第５に定める入学受験料を納付しなければならない。

２　本大学に科目等履修生を願い出る者は、別表第５に定める科目等履修生検定料を納付しなければならない。

３　研究生を願い出る者は、別表第５に定める研究生申請料を納付しなければならない。

４　聴講生を願い出る者は、別表第５に定める聴講生検定料を納付しなければならない。

第39条　本大学に入学を許可された者は、別表第６に定める入学金を納付しなければならない。

第40条　学生は、別表第７の⑴に定める授業料及び施設設備費を納付しなければならない。実験又は実習を要する授業科目を履修する者は、別表第７の⑵に定める実験費又は別表第７の⑶に定める実習費を納付しなければならない。

２　理工学部及び知能情報学部学生は、別表第７の⑴に定める設備充実費を納付しなければならない。

３　マネジメント創造学部学生は、別表第７の⑴に定める教育充実費を納付しなければならない。

４　フロンティアサイエンス学部学生は、別表第７の⑴に定める設備充実費及び教育充実費を納付しなければならない。

５　文学部人間科学科１年次学生は、別表第７の⑴に定める研究資料費を納付しなければならない。

６　休学中の者は、別表第７の⑷に定める在籍料を納付しなければならない。

７　第30条により復籍を許可された者は、復籍料を納付しなければならない。

第41条　科目等履修生は、別表第７の⑸に定める科目等履修料を納付しなければならない。

第41条の２　研究生は、別表第７の⑸に定める研究生登録料を納付しなければならない。

第41条の３　聴講生は、別表第７の⑸に定める聴講料を納付しなければならない。

第42条　入学金、授業料、施設設備費、設備充実費、教育充実費、研究資料費、実験費、実習費、復

籍料、在籍料、科目等履修料、研究生登録料、聴講料等の学費及び入学受験料、科目等履修生検定料、研究生申請料、聴講生検定料の徴収については、別に定める。

第43条　既納の学費、入学受験料、科目等履修生検定料、研究生申請料及び聴講生検定料は、返還しない。

２　入学許可を得た者で、指定の期日までに入学手続きの取消しを願い出たものについては、前項にかかわらず、入学金又はこれに相当する金額を除く学費を返還することがある。

（第10章～第19章、別表第１～第７及び附則は省略）

別表第２の⑷については、32ページ以下の項を参照のこと。

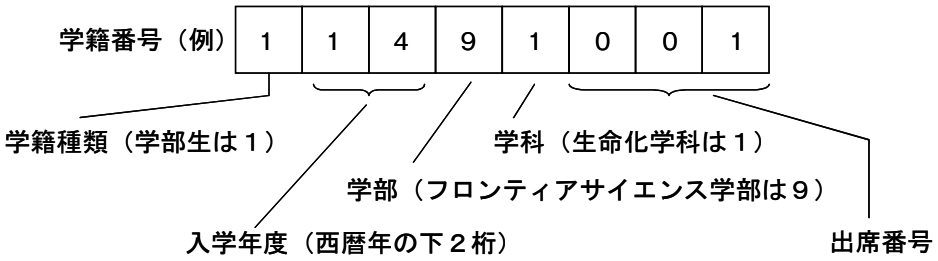
Ⅰ．はじめに

□ **履修に関するガイダンスについて**

履修に関するガイダンスは、皆さんが本学部で学ぶために必要な事項を説明する重要なものですので、4月2日に行われるガイダンスには必ず出席するようにして下さい。

□ **学籍番号**

学生証に記載されている学籍番号は原則として卒業まで変わりません。学籍番号は、次のような意味を持っています。



（注）学生証は､FIRST 棟（F-1号館）の図書室やマイラボに入室するために必要となりますので、登校時は、学生証を必ず携帯して下さい。また、岡本キャンパスの施設（図書館、サイバーライブラリ等）を使用する際に必要ですので、必ず携帯するように心がけて下さい。

□ **掲示・「My KONAN」について**

ポートアイランドキャンパス事務室の１階にある掲示板では、休講・補講等の授業に関するお知らせや奨学金情報など、学生生活に関する情報を掲示しています。

また、本学のホームページには学内者専用ポータルサイト「My KONAN」が設置されており、授業に関するお知らせ等、必要な情報を随時掲載しています。

学生生活に欠かせない情報を掲載していますので、掲示板・「My KONAN」ともに毎日確認するよう習慣付けて下さい。

なお、掲示板や「My KONAN」を見なかったことによる不利益についての対応及び電話による問い合わせには、一切応じません。

□ **甲南大学ポートアイランドキャンパス**

フロンティアサイエンス学部（FIRST）での教育・研究は、主に、甲南大学ポートアイランドキャンパスにある F-1号館で実施されます。

F-1号館は、本学部の他に、甲南大学先端生命工学研究所（FIBER）も使用するため、その通称には学部名などを入れず、『甲南 FAME ポートアイランド』という名称になっています。しかし、本書では便宜上、F-1号館内のフロンティアサイエンス学部の学生が主に使用する部屋や施設、さらに共用スペースを総じて、フロンティアサイエンス学部棟（FIRST 棟）と称することとします。なお、同様に先端生命工学研究所が主に使用するスペースと共用スペースを先端生命工学研究所棟（FIBER 棟）と称します。なお、FIRST は、「Frontiers of Innovative Research in Science and Technology」、FIBER は、「Frontier Institute for Biomolecular Engineering Research」、FAME は、「Future Atlas from Molecules to the Earth」（分子から地球への未来地図）をそれぞれ略記したも

のです。

□ フロンティアサイエンス学部棟（FIRST 棟）

授業では主に FIRST 棟（F-1号館）の２階にある講義室と高大連携実験室を使用します。棟内には、下記のように教室等を配置しています。詳細については、65ページの「F-1号館フロアマップ」を参照して下さい。

階	講義室等
７階	カフェテリア、売店、レクチャーホール、レクチャールーム
６階	研究室、実験室、大学院生室、ミーティングルーム、マイラボ
５階	研究室、実験室、大学院生室、ミーティングルーム、マイラボ
４階	研究室、実験室、大学院生室、ミーティングルーム、マイラボ
３階	研究室、実験室、大学院生室、ミーティングルーム、マイラボ
２階	講義室、高大連携実験室、自動販売機コーナー、カフェテラス
１階	事務室、図書室、共通測定室

F-1号館３階から６階の南北のウィングは先端生命工学研究所のスペース（FIBER 棟）です。皆さんは許可無く立ち入らないようにして下さい。

また、ポートアイランドキャンパスでは分煙ブース（ポートアイランドキャンパス西側サービスエントランス前）以外は、禁煙となっています。喫煙する者は、必ず分煙ブースで喫煙することとし、他の場所での喫煙や歩きたばこは絶対に行わないで下さい。

□ F-1号館の入館方法とセキュリティについて

F-1号館では高度なセキュリティを維持するため、一部のゾーンに立ち入るためには、そのゾーンへの立入り許可を受けた学生証が必要になります。講義室やカフェテリア等には自由に出入りできますが、皆さんが頻繁に使用するマイラボや図書室に入室するためには、学生証が必要となります。登校時には学生証を必ず携帯して下さい。学生証を忘れた場合はポートアイランドキャンパス管理室で仮カードを貸出しています。貸出を希望する場合はポートアイランドキャンパス事務室まで申し出て下さい。

※学生証の貸与や、立入り許可のない人の入室を手助けする等の行為は処罰の対象になることがあります。

万一、学生証を紛失・破損した場合には、速やかにポートアイランドキャンパス事務室に届け出て下さい。学生証の再発行には手数料として2,000円が必要になりますので、大切に扱って下さい。

□ 入館及び退館について

正面玄関の自動扉は月曜日から土曜日の午前８時から午後６時まで開放しています。

F-1号館及びマイラボへは平日・休日とも午前７時から午後８時まで立ち入り可能です。自動扉が開放されていない場合は正面玄関の入口左に設置しているカードリーダーに学生証をかざして自動扉横の通用口から入館して下さい。

□ **各学年のキャンパス退館時間について**

１年次から３年次は午後８時までにキャンパスから退館して下さい。

※研究室配属後に研究上の理由で午後10時以降も研究室・実験室を使用する場合は、必ず指導教員の許可を得た上で「夜間実験室利用届」をポートアイランドキャンパス管理室まで提出して下さい。

□ **長期休暇期間中（夏期・冬期）の入館・退館について**

長期休暇期間中、ポートアイランドキャンパス事務室が閉室している場合、正面入口から入館することができません。ポートアイランドキャンパスの西側にあるポートアイランド管理室から入館し、入館時及び退館時に管理簿に記帳して下さい。長期休暇期間中でも退館時間を守るよう、注意して下さい。

□ **ポートアイランドキャンパス事務室について**

皆さんの学生生活をサポートするための様々なサービスを提供しています。書類の提出や各種手続きなど、分からないことがあれば、気軽に相談に来て下さい。開室時間は以下のとおりです。

平日８時45分から18時まで（土曜日は８時45分から13時まで）

※日曜日・祝日・年末年始は閉室。

※夏期休暇期間中の開室時間は平日10時から16時まで。土曜日は閉室。

※冬期休暇期間中の開室時間は平日8時45分から17時まで。土曜日は８時45分から13時まで。

□ **各種証明書の発行について**

ポートアイランドキャンパスの学生は岡本キャンパスに行くことなく、各種証明書（在学証明書・成績証明書・学修簿・学割証等）の発行をポートアイランドキャンパス事務室で申請することが可能です。必要な場合は申し出て下さい。

※岡本キャンパスでも１号館１階に設置している自動発行機で発行可能です。

□ **マイラボ**

FIRST 棟 (F-1号館) の３階から６階には、「マイラボ」と呼ばれる研究・学習用スペースが設けられており、皆さんが使用できる机、イス、ロッカーが、各自に１セットずつ用意されています。課題の克服、自主的な発展学習、レポートの作成等、自らの能力向上のために有効に活用して下さい。また無線 LAN も備えていますので、インターネットを通じた情報収集で学習に役立てて下さい。なお、「マイラボ」は研究・学習スペースであるため教員や研究員等の研究エリア内に設置されています。使用に際しては、教職員の指示に従って下さい。49ページにある「マイラボの過ごし方」をよく読み、FIRST での学びの主旨をよく理解した上で使用して下さい。インターネットの設定及び使用上の注意については、別途説明会を実施します。

皆さんが使用するフロア（３階から６階）及び机、イス、ロッカーの割り振りについては、別途指

示します。使用するフロアや場所は定期的に変更されますので、机、イス、ロッカー等は大切に扱って下さい。

□ 図書室の利用

F-1号館にある図書室は入口のセキュリティゲートに学生証をかざすことによって入室することができます。貸出処理を行った図書を除くすべての図書の持ち出しはできません。学習・研究に資料が必要な場合は、図書室内に設置しているコイン式のコピー機を利用して下さい。

また、岡本キャンパスにある図書館、雑誌館及びサイバーライブラリを利用することができます。利用方法については４月２日の履修指導後に行われる図書館オリエンテーションで説明します。

□ マイラボ複合機と図書室のコピー機の利用について

マイラボの３階と５階に設置している複合機と、図書室に設置しているコピー機を使用して印刷を行った場合、１人あたり１年間に一定額の補助を受けることが可能です。１年間の補助金額は学部生で１万円となりますが、補助限度額を超えた利用料は自己負担になります。補助費の支払いは年３回行いますので、2014年度の日程詳細は掲示もしくは「My KONAN」で発表を行いますので、各自確認して下さい。

□ 講義室の貸出について

自主学習や発表練習などを行う際に、講義室を使用することが可能です。使用する場合はポートアイランドキャンパス事務室に申し出て下さい。（講義・会議・イベント等での使用を優先します。）

□「202講義室」の開放について

キャンパス内の学生の憩いの場・フリースペースとして、２階の202講義室を自由利用教室として開放します。利用可能日時は、次の通りです。

・平日・土曜・授業実施日８時30分～19時30分

（日曜･祝日（授業実施日を除く）･ポートアイランドキャンパス事務室の閉室日は利用不可とします。）

※ただし、講義・会議・イベント等での使用を優先します。講義室内のＡＶ機器・電話は利用できません。

□ 遺失物について

キャンパス内での忘れ物は一旦ポートアイランドキャンパス事務室に保管されます。それらの遺失物は一定期間後、引き取り手がない場合は破棄します。

□ 自転車・遊具の貸出について

ポートアイランドキャンパス事務室では自転車と遊具の貸出を行っています。希望する場合は申し出て下さい。（貸出時間に制限があります。）

□ **キャリア支援について**

ポートアイランドキャンパスでのキャリアに関する相談はキャリアカウンセラーやキャリア担当の職員が担当します。また、求人情報やキャリア関連書籍・雑誌も充実しています。

また、岡本キャンパスのキャリアセンターでも、各種キャリアイベントやセミナーなども実施しています。早い段階で将来のキャリアデザインについて意識をもち、積極的な活用を図りましょう。

□ **医務室・学生サロン室の利用について**

学内でけがをした場合や体調が悪い場合は1階の医務室を利用することが可能です。開室時間は平日9時から17時（土曜日は閉室）となっています。

学生サロン室はちょっと疲れたとき、静かに休憩したいとき、友達とゆっくり話したいとき、医務室の開室時間中は解放していますので、自由に利用して下さい。湯茶のセルフサービス、図書や雑誌の閲覧と貸し出し、ＣＤ・ＤＶＤの視聴などが出来ます。

□ **授業に必要な物品について**

講義等で必要となる教科書や参考書、演習で必要なパーソナルコンピュータ（PC）やソフトウェア、実験で必要な白衣、保護めがね等は、F-1号館７階の売店にて購入することができます。販売期間等の詳細は、掲示等にて周知されますので注意して下さい。

□ **履修登録について**

履修登録や履修確認は「My KONAN」で行うことができますので、履修登録や履修確認のために岡本キャンパスに行く必要はありません。履修登録及び登録確認の方法については、４月２日の履修指導で詳細を説明します。

□ **指導主任**

１～３年次の間に主担当及び副担当（２名）の指導主任が割り当てられます。主担当教員は３年次まで同じ教員で、副担当教員は定期的に変更されます。学修上や大学生活上の問題については、これら担当教員が相談に乗ります。科目選択をはじめ、気軽に相談して下さい。なお、副担当の１名は、皆さんに割り当てられたマイラボと同一フロアにいる教員が担当します。

４年次には皆さんが希望する卒業研究のテーマに応じて、主担当及び副担当の指導主任を新たに決定します。

□ **パーソナルコンピュータとインターネット**

皆さんの効果的な学習のため、各自がパーソナルコンピュータ（PC）１台をマイラボに用意しておくことになっています。インターネットでの情報収集や実験のレポート作成に欠かせないものですので、必ず用意して下さい。必要なハードウェアスペックやソフトウェア及び具体的な機種選定についての相談は、入学式後に行われる新入生オリエンテーションもしくは担当教員が受け付けます。またPCは、演習系科目（「科学英語コミュニケーション１～４」「プレゼンテーション演習１～４」）においても使用することがありますので、必ずノート型PCを用意して下さい。

PC の設定に関して、「科学英語コミュニケーション１～４」「プレゼンテーション演習１～４」等の授業で皆さんの PC 上の資料をスクリーンに映す際に、PC 名が必要となります。教員が PC 名を把握できるように、PC 名は【学籍番号 _ 名字（ローマ字)】と設定して下さい（例：11491099_Hirao)。

インターネットに関する設定や注意事項等は、４月に実施する PC 講習会で説明を行います。

Ⅱ．履修について

□ **授業について**

１．学　期

本学部では、講義期間を４つに分け、2014年度は４月５日から５月29日までをＡ期、６月２日から７月23日までをＢ期、９月19日から11月11日までをＣ期、11月14日から１月16日までをＤ期として位置づけ、原則として選択必修科目（Ａ群、Ｂ群）等については、各学期８週（週２回、計15回）の授業を実施します。なお、このような形態で実施する科目をクォーター科目と呼びます。同時に、Ａ期、Ｂ期、休業期間等を合わせた４月１日から９月16日までを前期、Ｃ期、Ｄ期、休業期間等を合わせた９月17日から３月31日までを後期として位置付け、基礎科目や選択必修科目（Ｃ群）等については、前期あるいは後期各15週（週１回、計15回）の授業を実施します。このような形態で実施する科目をそれぞれ前期科目及び後期科目（総じて半期科目）と呼びます。ただし、クォーター科目及び半期科目は、期間を定めて集中講義として授業を実施することもあります。この他、前・後期を通じて年間30週（週１回、計30回）の授業を実施する科目もあり、これらは通年科目と呼びます。

期　　別	学期	期　　間
前　　期（4/1-9/16）	Ａ期	４月５日～５月29日
	Ｂ期	６月２日～７月23日
後　　期（9/17-3/31）	Ｃ期	９月19日～11月11日
	Ｄ期	11月14日～１月16日

＊２ページの「平成26年度（2014年度）フロンティアサイエンス学部 学年暦」を参照して下さい。

２．授業時間帯

授業は、下記の時間帯に行い、主に FIRST 棟（F-1号館）の教室を使用します。１限90分授業です。

時限時間帯

１時限	２時限	３時限	４時限	５時限
９：00～10：30	10：40～12：10	13：00～14：30	14：40～16：10	16：20～17：50

３．学生への連絡方法・掲示について

本学部では、試験時間割、教室の変更、休講、補講、学生呼出、ガイダンスの実施等の諸連絡は、FIRST 棟（F-1号館）１階ポートアイランドキャンパス事務室内掲示板に掲示します。毎日、機会あるごとに掲示板を見る習慣をつけて下さい。

また、本学のホームページには学内者専用ポータルサイト「My KONAN」が設置されており、休講･補講、教室変更や授業に関する急なお知らせを随時掲載しています。その他連絡事項については、緊急の場合や長期休暇中にのみ掲載します。詳細は入学時のガイダンスの際、お知らせします。

なお、掲示板や「My KONAN」を見なかったことによる不利益についての対応及び電話による問い合わせには、一切応じません。

４．補　講

休講等の事由により、授業時間の不足が生じた場合には補講を行います。担当教員から補講の連絡があれば、掲示もしくは「My KONAN」でお知らせします。

５．授業の欠席について

本学では、公に認められた欠席制度（公欠制度）はありません。病気やケガ、忌引き等で授業を欠席したときは、次回の授業時に担当教員に連絡して下さい。ただし、取り扱いは担当教員の判断によります。なお、ポートアイランドキャンパス事務室に欠席の連絡を入れても、担当教員にお伝えすることはできません。

６．私鉄のストライキ、台風等の場合の授業及び試験の取扱い

私鉄のストライキまたは暴風警報が発令されたときは

⑴　**午前７時までに**、解決または解除されたときは、**平常どおり**授業・試験を行います。

⑵　**午前11時までに**、解決または解除されたときは、**３時限目**から授業・試験を行います。したがって、午前11時を過ぎても、解決または解除されないときは、授業・試験を行いません。

⑶　暴風警報が授業時間中に発令されたときは、発令以降休講とし、試験時間中に発令されたときは、教務部長の判断により措置します。

ただし、私鉄のストライキの場合は、JR「京都－西明石」区間または阪急電車の運行が全面的に停止、またはこれに準ずる場合とします。また、暴風警報は、下表のいずれかの市町村に発令された場合とします。

※

地　域	市　町　村
阪神	神戸市、芦屋市、西宮市、尼崎市、伊丹市、宝塚市、川西市、三田市、猪名川町

※「暴風警報」以外の警報が発令されても休講にはなりませんので、注意して下さい。

※神戸新交通ポートアイランド線の運行が停止した場合、授業及び試験を実施しない場合があります。

□単位制及び単位の修得について

授業は１回90分授業とし、計15回（ただし、試験は含みません。）を原則２単位とします。つまり、授業科目２単位は、毎週１回90分授業を前期もしくは後期に15週を基本として実施する、あるいは、毎週２回90分授業を学期中（Ａ、Ｂ、Ｃ、Ｄ期のいずれか）に８週（15回）を基本として実施することを意味しています。ただし、期間を定めて集中講義で授業を実施することもあります。

授業科目を履修し、試験等に合格した場合、単位を修得することができます。成績評価についての詳細は、43ページに記載しています。

□学位について

本学部において所定の単位を修得し卒業した者には、学士（理工学）の学位が授与されます。

□卒業要件と進級制限について

１．卒業要件

本学部を卒業するためには、原則として４年以上在学し、かつ、⑴基礎科目（必修21単位）、⑵基礎専門科目（必修８単位）、⑶専門科目（必修39単位、選択必修科目Ａ群より24単位以上）、⑷応用専

門科目（選択必修科目Ｂ群より14単位以上）、⑸教養科目（必修２単位、選択必修科目Ｃ群より６単位以上）を修得し、合計128単位以上を修得しなければなりません。なお、選択必修科目Ａ群に関しては、Ａ１:バイオサイエンスパック、Ａ２:ナノサイエンスパック、Ａ３:ナノバイオサイエンスパック、Ａ４：ケミカルサイエンスパックのうち、１つ以上のパックについて、すべての科目の単位を修得しなくてはなりません。また、各パック内のアドバンスト科目（Ａ１ 「薬理学」･「発生学」、Ａ２「ナノテクノロジー」･「生物無機化学」、Ａ３ 「生命化学１」･「生命化学２」（2013年度以前入学生）「高分子化学」･「生体分子工学」（2014年度入学生）、Ａ４ 「生物有機化学」･「有機合成化学」）を履修するためには、当該パックに対応する基礎専門科目（序論）を修得していることが原則として必要です。

2013年度（平成25年度）以降の入学生はキャリア・国際交流科目の「ベーシック・キャリアデザイン」、「エリアスタディーズⅠ」、「エリアスタディーズⅡ」、「エリアスタディーズⅢ」、「エリアスタディーズⅣ」、「エリアスタディーズⅤ」を修得した場合、「ベーシック･キャリアデザイン」の２単位及び「エリアスタディーズⅠ～Ⅴ」のうち、いずれか１科目２単位を卒業単位数に充てることができますが、必修科目や選択必修科目の単位数に充てることはできません。

また、2012年度（平成24年度）以前入学生はキャリア科目の「ベーシック・キャリアデザイン」を修得した場合、卒業単位数に充てることができますが、必修科目や選択必修科目の単位数に充てることはできません。

２．履修科目の登録の制限について

効果的な学習を行うために、１年間に履修科目として登録することのできる単位数を、１年次は41単位、２年次以降は40単位に制限しています。各年次とも、この単位数を超えて履修科目を登録することはできません。

３．基礎体育学演習（必修科目）

授業科目	単位	期　別	配当年次
基礎体育学演習	2	通	1

１．講義の内容

生活の中に定期的に運動を取り入れながら、自分の身体について学び、体力やフィジカル・コンディショニングの知識を深めます。まず、体力測定を実施し、自分の体力の現状を把握します。また、実技を行いながら、身体組成を測定し、身体の変化をみていきます。前期は数種類のスポーツと講義を行い、後期は選択したコースでスポーツを行います。この授業を通して、フィジカル・マネージメントができる姿勢を身に付けるとともに、スポーツを通してコミュニケーション力を高めることを目指します。

２．履修上の注意

１）１年次開講の必修科目で、卒業までに２単位を修得しなければならない。

２）この科目を履修するためには、学内の定期健康診断及び身体検査を受診しなければならない。

３）出席日数が年間の授業実施回数（休講は回数から除く）の3/4以上出席した者を、評価対象者とする。

４）この科目は、前期は３・４限の、後期は１・２限の連続科目となる。ポートアイランド校地と六甲アイランド校地との移動時間などが含まれるためで、実際の授業時間はオリエンテーションでの指示に従うこと。

５）講義場所は、基本的に六甲アイランド校地で実施する。使用する施設は講義内容（前期は２週間毎に各施設をローテーション、後期は選択した種目）によって異なるので、オリエンテーションでの指示に従うこと。

６）病気、不慮の事故、その他やむを得ない理由で授業を受講できない場合は、速やかに担当教員又はポートアイランドキャンパス事務室に相談すること。

７）身体障害、疾病、けが等で通常の受講に支障があると考えられる学生は、事前に担当教員又はポートアイランドキャンパス事務室に相談すること。

４．ナノバイオラボ２Ｂの履修要件

前期終了時までの単位修得状況から、３年次後期配当科目である「ナノバイオラボ2B」を修得したとしても後述の「ナノバイオ卒業研究」の履修要件を満たさないことが明らかな場合、原則として「ナノバイオラボ2B」を履修することができません。「ナノバイオラボ2B」は必修科目ですので、履修することができない場合、４年間では卒業できないことになります。１年次から計画的な履修を心がけて下さい。

５．ナノバイオ卒業研究の履修要件

以下の条件⑴～⑹をすべて満たしていない場合は、4年次配当科目である「ナノバイオ卒業研究」を原則として履修することができません。「ナノバイオ卒業研究」は必修科目ですので、履修することができない場合、４年間では卒業できないことになります。１年次から計画的な履修を心がけて下さい。

なお、３年次配当までの全ての実験科目を修得していながら「ナノバイオ卒業研究」の履修要件を満たしていない４年次学生は、いずれかの研究室に仮配属されます。仮配属中の研究室における活動については担当教員とよく相談して下さい。ただし、仮配属によって「ナノバイオ卒業研究」の単位を修得することはできませんので注意して下さい。

⑴　基礎科目については「基礎体育学演習」を含めた17単位以上修得していること。

⑵　基礎専門科目（必修８単位）をすべて修得していること。

⑶　専門科目については、必修24単位、選択必修科目Ａ群より24単位以上を修得していること。

⑷　応用専門科目については、選択必修科目Ｂ群より14単位以上を修得していること。

⑸　教養科目については、必修２単位、選択必修科目Ｃ群より６単位以上を修得していること。

⑹　選択必修科目Ａ群に関しては、Ａ１：バイオサイエンスパック、Ａ２：ナノサイエンスパック、Ａ３：ナノバイオサイエンスパック、Ａ４：ケミカルサイエンスパックのうち、１つ以上のパックについて、すべての科目の単位を修得していること。

□ **カリキュラムについて**

カリキュラムは、⑴基礎科目、⑵基礎専門科目、⑶専門科目、⑷応用専門科目、⑸教養科目から成っています。

⑴〔基礎科目〕

専門分野に関する知識や技能を身につける上で、その前提となる基礎学力や能力を養成します。「数学及び演習」、「英語及び演習」、「日本語表現及び演習」では、高等学校で習得した数学、英語、日本語に関する基礎力を再確認するとともに、専門教育を受けるのに必要なレベルまで引き上げることを目的としています。「安全倫理工学」では、科学者・技術者として身につけておくべき倫理観や、実験を安全に行うための知識を身につけます。また、大学生として必要な基礎体力の養成と体育知識の習得を図る「基礎体育学演習」も基礎科目に含まれます。

また、２種類の演習系科目「科学英語コミュニケーション１～４」「プレゼンテーション演習１～４」では、将来、専門知識や専門技能を活かして社会で活躍する際に必要となる、専門的内容に関する英語のリーディング・ライティング・スピーチ・ヒアリング、及び英語あるいは日本語による表現技法について学びます。

基礎科目は計21単位すべてが必修で、「英語及び演習」及び「基礎体育学演習」は通年科目、他は半期科目となっています。

⑵〔基礎専門科目〕

４つの序論科目から成っており、無機化学（ナノ）、生物学（バイオ）、物理化学（ナノバイオ）、有機化学（ケミカル）等に関する基礎的な知識や考え方、さらに各分野の最新トピックス等を交え、各分野の魅力や全体像を把握できる科目構成になっています。

基礎専門科目は計８単位すべてが必修で、いずれの科目も半期科目です。

⑶〔専門科目〕

必修科目である実験科目と選択必修である講義科目から成っており、本学部での「学び」の根幹となる知識と技能を習得します。

実験科目「ナノバイオラボベーシックＡ」「ナノバイオラボベーシックＢ」「ナノバイオラボ１Ａ」「ナノバイオラボ１Ｂ」「ナノバイオラボ２Ａ」「ナノバイオラボ２Ｂ」は１年次から３年次まで、ナノ、バイオ、ナノバイオに関する実験技能及び関連知識を系統的に身につける構成となっています。また、３年次後期の「ナノバイオラボ２Ｂ」では、１つのテーマを選択して重点的に取り組むことにより、さらに高度な実験技術に加えて、結果の解釈や考察の記述に習熟する等、研究への橋渡しとなる内容になっています。なお、これらはいずれも半期科目です。

さらに４年次には、研究室に配属の上、「ナノバイオ卒業研究」を履修して卒業研究に取り組みます。「ナノバイオ卒業研究」は通年科目で、年度の終わりには研究内容に関する発表や質疑応答等を通じて成績評価がなされます。なお、配属先の研究室は学生の希望に応じて決定されますが、希望が重複した場合には原則としてＧＰＡをもとに調整が行われます。

講義科目は選択必修科目Ａ群と位置付けられており、Ａ１：バイオサイエンスパック、Ａ２：ナノ

サイエンスパック、Ａ３：ナノバイオサイエンスパック、Ａ４：ケミカルサイエンスパックという４つのパック（科目群）に分類されています。卒業に際しては、このうち少なくとも１つのパックについては、すべての科目を修得することが求められます。これは、各学生が自らの興味や将来展望に沿って様々な科目選択を行いながらも、軸となる専門分野については深くじっくり学んでもらいたいという本学部のポリシーを反映したものです。履修の考え方として、基礎科学分野を深く学びたいという学生は、この選択必修科目Ａ群を中心に履修し、複数のパックについて完全に修得すればよい、と言えます。逆に、応用分野も含めて広く学びたい学生は、１つのパックを完全に修得した上で残りの必要な単位は他のパックや応用専門科目（選択必修科目Ｂ群）から幅広く修得すればよい、と言えます。なお、選択必修科目Ａ群の科目はすべてクォーター科目です。

専門科目では、必修39単位、選択必修科目Ａ群から24単位以上、計63単位以上を修得することが必要です。

⑷〔応用専門科目〕

専門科目で身につけたナノ、バイオ、ナノバイオ、ケミカルに関する知識や技能を、社会に活かすという視点から捉える科目群（選択必修科目Ｂ群）で構成されています。その視点の違いによって、環境から情報技術まで幅広い最先端科学技術を取り扱うＢ１：先端テクノロジーパック、医療・創薬系の科学技術を取り扱うＢ２：メディカルサイエンスパック、企業の研究開発等について取り扱うＢ３：サイエンスマネジメントパック、知財関連法規や起業について取り扱うＢ４：コーディネーターパックという４つのパック（科目群）に分類されています。

応用専門科目は14単位以上の修得が必要です。

⑸〔教養科目〕

必修科目である「フロントランナー講座」と、選択必修科目Ｃ群から構成されており、必修２単位、選択必修科目６単位以上、合計８単位以上を修得しなくてはなりません。

「フロントランナー講座」は各界の最先端を切り拓いている“フロントランナー”をゲスト講師としてお招きして、先進的な考え方、困難を乗り越えた経験談、さらには甲南スピリットについて教授いただくという趣旨の、本学部独自の特別な科目です。１年次後期に開講され（後期科目）、早い時期に将来を考え始めるきっかけとするというキャリア教育の役割も担っています。

選択必修科目Ｃ群は、科学に関連する幅広い教養知識の涵養を目的とした科目群です。科学を違う角度から見つめ直すことによって、新たな興味や関心を育てて下さい。

□ シラバスについて

シラバスとは講義実施要綱のことで、講義の内容、到達目標、講義方法、準備学習、成績評価、講義構成、教科書、参考書・資料、担当者から一言などが記載されています。学生のみなさんが履修計画を立て、時間割を作成し、履修登録する上で必要不可欠なものです。また、講義が開始されてから、学生のみなさんが予習復習を行う際にも活用します。成績評価の方法が記載されていますので、学修簿（成績表）受領後、学修状況について反省する機会にも必要となってきます。

シラバスを熟読し、履修計画をしっかり立て、充実した学生生活を過ごせるよう努めてください。

なお、シラバスは『My KONAN』で確認してください。

フロンティアサイエンス学部　生命化学科

専門教育科目表

フロンティアサイエンス学部生命化学科専門教育科目表

※開講期別は変更される場合があります。　〔2014年度（平成26年度）入学生に適用〕

授業科目				単位	期別	配当年次	備考
必修科目	教養科目	フロントランナー講座		2	後	1	
	基礎科目	科学英語コミュニケーション１		1	前	1	
		科学英語コミュニケーション２		1	前	2	
		科学英語コミュニケーション３		1	前	3	
		科学英語コミュニケーション４		1	前	4	
		プレゼンテーション演習１		1	後	1	
		プレゼンテーション演習２		1	後	2	
		プレゼンテーション演習３		1	後	3	
		プレゼンテーション演習４		1	後	4	
		数学及び演習		3	前	1	
		英語及び演習		3	通	1	
		日本語表現及び演習		3	後	1	
		安全倫理工学		2	後	3	
		基礎体育学演習		2	通	1	
	専門基礎科目	バイオサイエンス序論		2	前	1	
		ナノサイエンス序論		2	前	1	
		ナノバイオサイエンス序論		2	前	1	
		ケミカルサイエンス序論		2	前	1	
	専門科目	ナノバイオラボベーシックＡ		2	前	1	
		ナノバイオラボベーシックＢ		2	後	1	
		ナノバイオラボ１Ａ		4	前	2	
		ナノバイオラボ１Ｂ		4	後	2	
		ナノバイオラボ２Ａ		6	前	3	
		ナノバイオラボ２Ｂ		6	後	3	
		ナノバイオ卒業研究		15	通	4	
以上70単位必修							
選択必修科目Ａ群	専門科目	Ａ１：バイオサイエンスパック					
		ベーシック科目	分子生物学	2	C	1	
			遺伝子工学・バイオテクノロジー	2	D	1	
			生命機能科学	2	A	2	
			細胞工学	2	D	2	
		アドバンスト科目	薬理学	2	B	2	
			発生学	2	B	3	
		A2：ナノサイエンスパック					
		ベーシック科目	無機化学	2	C	1	
			量子物理化学	2	D	1	
			固体光化学	2	A	2	
			電気化学	2	A	3	
		アドバンスト科目	ナノテクノロジー	2	B	2	
			生物無機化学	2	C	2	
		A3：ナノバイオサイエンスパック					
		ベーシック科目	生化学	2	C	1	
			生命分析化学	2	D	1	
			生命物理化学	2	A	2	
			バイオ計測工学	2	B	2	
		アドバンスト科目	高分子化学	2	C	2	
			生体分子工学	2	A	3	
		A4：ケミカルサイエンスパック					
		ベーシック科目	構造有機化学	2	C	1	
			有機電子論	2	D	1	
			有機反応各論	2	A	2	
			有機化学と分光法	2	B	2	
		アドバンスト科目	生物有機化学	2	D	2	
			有機合成化学	2	B	3	
以上選択必修科目Ａ群のうち、24単位以上選択必修 ただし、いずれか1パックについてはすべて修得すること							
キャリア科目	国際交流科目	ベーシック・キャリアデザイン		2	前	1	選択必修科目の単位数に充てることができない
		エリアスタディーズⅠ		2	集中	1	
		エリアスタディーズⅡ		2	集中	1	
		エリアスタディーズⅢ		2	集中	1	
		エリアスタディーズⅣ		2	集中	1	
		エリアスタディーズⅤ		2	休講	1	

授業科目			単位数	期別	配当年次	備考
選択必修科目B群	応用専門科目	B1：先端テクノロジーパック				
		ケミカルバイオロジー	2	B	3	
		バイオセンシングと環境	2	C	2	
		アドバンストマテリアル	2	D	2	
		先端情報テクノロジー	2	集中	3	
		Ｂ２：メディカルサイエンスパック（他大学連携科目）				
		メディカルサイエンス概論	2	A･集中	2	
		医療テクノロジー	2	後	3	
		創薬テクノロジー	2	A･集中	3	
		メディカルバイオテクノロジー	2	後	2	
		Ｂ３：サイエンスマネジメントパック（企業連携）				
		企業戦略・テクノロジー概論	2	後	2	
		医療関連研究開発論	2	集中	3	
		バイオ・食品関連研究開発論	2	後	2	
		ナノ・材料関連研究開発論	2	集中	3	
		Ｂ４：コーディネーターパック				
		知財マネジメント	2	後	3	
		シーズ／ニーズマッチング	2	後	3	
		国際産学コーディネーター	2	後	3	
		インターンシップ	2	集中	2	
以上選択必修科目Ｂ群のうち、14単位以上選択必修						
選択必修科目C群	教養科目	科学と健康	2	後	2	
		科学と情報技術	2	前	2	
		科学とエネルギー・環境	2	集中	2	
		科学と芸術・哲学	2	集中	2	
		科学と歴史・文学	2	前	3	
		科学と産業政策	2	集中	3	
以上選択必修科目Ｃ群のうち、6単位以上選択必修						

必修科目		選択必修科目	
教養科目	2単位	教養科目	6単位以上
基礎科目	21単位		
基礎専門科目	8単位		
専門科目	39単位	専門科目	24単位以上
		応用専門科目	14単位以上
卒業必要単位数			128単位以上

フロンティアサイエンス学部履修登録科目の単位制限に関する内規

〔平成21年３月26日
合同教授会制定〕

改正　平成25年３月８日

フロンティアサイエンス学部の学生が履修する授業科目において、登録単位制限を受ける科目及び単位数は次のとおりである。なお、下記表中の「授業科目表」とは、自己の入学年度に適用される授業科目表をいう。また、前期履修登録及び後期履修登録を合わせた単位数に対して登録単位制限を受けるものとする。

	１年次	２年次	３年次	４年次
フロンティアサイエンス学部 授業科目表に記載の科目	通年で合計 41単位以内	通年で合計 40単位以内	通年で合計 40単位以内	通年で合計 40単位以内

ただし、次に掲げる科目の単位については、上記表の制限を受けない。
①「インターンシップ」（平成23年度以降入学生に適用）
②「エリアスタディーズⅠ～Ⅴ」（平成25年度以降入学生に適用）

附　則
この内規は、平成21年４月１日から施行する。
附　則
この内規は、平成23年４月１日から施行する。
附　則
この内規は、平成25年４月１日から施行する。

フロンティアサイエンス学部生命化学科専門教育科目表

※開講期別は変更される場合があります。　〔2013年度（平成25年度）入学生に適用〕

授業科目				単位	期別	配当年次	備考
必修科目	教養科目	フロントランナー講座		2	後	1	
	基礎科目	科学英語コミュニケーション１		1	前	1	
		科学英語コミュニケーション２		1	前	2	
		科学英語コミュニケーション３		1	前	3	
		科学英語コミュニケーション４		1	前	4	
		プレゼンテーション演習１		1	後	1	
		プレゼンテーション演習２		1	後	2	
		プレゼンテーション演習３		1	後	3	
		プレゼンテーション演習４		1	後	4	
		数学及び演習		3	前	1	
		英語及び演習		3	通	1	
		日本語表現及び演習		3	後	1	
		安全倫理工学		2		3	
		基礎体育学演習		2	通	1	
	専門基礎科目	バイオサイエンス序論		2	前	1	
		ナノサイエンス序論		2	前	1	
		ナノバイオサイエンス序論		2	前	1	
		ケミカルサイエンス序論		2	前	1	
	専門科目	ナノバイオラボベーシックＡ		2	前	1	
		ナノバイオラボベーシックＢ		2	後	1	
		ナノバイオラボ１Ａ		4	前	2	
		ナノバイオラボ１Ｂ		4	後	2	
		ナノバイオラボ２Ａ		6	前	3	
		ナノバイオラボ２Ｂ		6	後	3	
		ナノバイオ卒業研究		15	通	4	
以上70単位必修							
選択必修科目Ａ群	専門科目	Ａ１：バイオサイエンスパック					
		ベーシック科目	分子生物学	2	C	1	
			遺伝子工学・バイオテクノロジー	2	D	2	
			生化学	2	C	1	
			細胞工学	2	D	2	
		アドバンスト科目	薬理学	2	B	2	
			発生学	2	B	2	
		A2：ナノサイエンスパック					
		ベーシック科目	電気化学	2	A	2	
			半導体・デバイス化学	2	A	2	
			無機化学	2	C	1	
			量子物理化学	2	D	1	
		アドバンスト科目	ナノテクノロジー	2	B	2	
			生物無機化学	2	C	2	
		A3：ナノバイオサイエンスパック					
		ベーシック科目	生命物理化学	2	A	1	
			バイオ高分子化学	2	C	1	
			バイオ計測工学	2	B	2	
			生命分析化学	2	D	2	
		アドバンスト科目	生命化学１	2	A	3	
			生命化学２	2	A	3	
		A4：ケミカルサイエンスパック					
		ベーシック科目	有機電子論	2	D	1	
			有機反応各論	2	A	1	
			構造有機化学	2	C	1	
			有機化学と分光法	2	B	1	
		アドバンスト科目	生物有機化学	2	D	2	
			有機合成化学	2	B	2	
以上選択必修科目Ａ群のうち、24単位以上選択必修 ただし、いずれか1パックについてはすべて修得すること							
キャリア科目	国際交流科目	ベーシック・キャリアデザイン		2	前	1	選択必修科目の単位数に充てることができない
		エリアスタディーズⅠ		2	集中	1	
		エリアスタディーズⅡ		2	集中	1	
		エリアスタディーズⅢ		2	集中	1	
		エリアスタディーズⅣ		2	集中	1	
		エリアスタディーズⅤ		2	休講	1	

授業科目			単位数	期別	配当年次	備考
選択必修科目B群	応用専門科目	B1：先端テクノロジーパック				
		ケミカルバイオロジー	2	B	3	
		バイオセンシングと環境	2	C	2	
		アドバンストマテリアル	2	D	2	
		先端情報テクノロジー	2	集中	3	
		Ｂ２：メディカルサイエンスパック（他大学連携科目）				
		メディカルサイエンス概論	2	A･集中	2	
		医療テクノロジー	2	後	3	
		創薬テクノロジー	2	A･集中	3	
		メディカルバイオテクノロジー	2	後	2	
		Ｂ３：サイエンスマネジメントパック（企業連携）				
		企業戦略・テクノロジー概論	2	後	2	
		医療関連研究開発論	2	集中	3	
		バイオ・食品関連研究開発論	2	後	2	
		ナノ・材料関連研究開発論	2	集中	3	
		Ｂ４：コーディネーターパック				
		知財マネジメント	2	後	3	
		シーズ／ニーズマッチング	2	後	3	
		国際産学コーディネーター	2	後	3	
		インターンシップ	2	集中	3	
以上選択必修科目Ｂ群のうち、14単位以上選択必修						
選択必修科目C群	教養科目	科学と健康	2	後	2	
		科学と情報技術	2	前	2	
		科学とエネルギー・環境	2	集中	2	
		科学と芸術・哲学	2	集中	2	
		科学と歴史・文学	2	前	3	
		科学と産業政策	2	集中	3	
以上選択必修科目Ｃ群のうち、6単位以上選択必修						

必修科目		選択必修科目	
教養科目	2単位	教養科目	6単位以上
基礎科目	21単位		
基礎専門科目	8単位		
専門科目	39単位	専門科目	24単位以上
		応用専門科目	14単位以上
卒業必要単位数			128単位以上

フロンティアサイエンス学部履修登録科目の単位制限に関する内規

〔平成21年３月26日
合同教授会制定〕

改正　平成25年３月８日

フロンティアサイエンス学部の学生が履修する授業科目において、登録単位制限を受ける科目及び単位数は次のとおりである。なお、下記表中の「授業科目表」とは、自己の入学年度に適用される授業科目表をいう。また、前期履修登録及び後期履修登録を合わせた単位数に対して登録単位制限を受けるものとする。

	１年次	２年次	３年次	４年次
フロンティアサイエンス学部 授業科目表に記載の科目	通年で合計 41単位以内	通年で合計 40単位以内	通年で合計 40単位以内	通年で合計 40単位以内

ただし、次に掲げる科目の単位については、上記表の制限を受けない。
①「インターンシップ」（平成23年度以降入学生に適用）
②「エリアスタディーズⅠ～Ⅴ」（平成25年度以降入学生に適用）

附　則
この内規は、平成21年４月１日から施行する。
附　則
この内規は、平成23年４月１日から施行する。
附　則
この内規は、平成25年４月１日から施行する。

フロンティアサイエンス学部生命化学科専門教育科目表

※開講期別は変更される場合があります。　〔2012年度（平成24年度）以前入学生に適用〕

授業科目				単位	期別	配当年次	備考
必修科目	教養科目	フロントランナー講座		2	後	1	
	基礎科目	科学英語コミュニケーション１		1	前	1	
		科学英語コミュニケーション２		1	前	2	
		科学英語コミュニケーション３		1	前	3	
		科学英語コミュニケーション４		1	前	4	
		プレゼンテーション演習１		1	後	1	
		プレゼンテーション演習２		1	後	2	
		プレゼンテーション演習３		1	後	3	
		プレゼンテーション演習４		1	後	4	
		数学及び演習		3	前	1	
		英語及び演習		3	通	1	
		日本語表現及び演習		3	後	1	
		安全倫理工学		2	後	3	
		基礎体育学演習		2	通	1	
	専門基礎科目	バイオサイエンス序論		2	前	1	
		ナノサイエンス序論		2	前	1	
		ナノバイオサイエンス序論		2	前	1	
		ケミカルサイエンス序論		2	前	1	
	専門科目	ナノバイオラボベーシックＡ		2	前	1	
		ナノバイオラボベーシックＢ		2	後	1	
		ナノバイオラボ１Ａ		4	前	2	
		ナノバイオラボ１Ｂ		4	後	2	
		ナノバイオラボ２Ａ		6	前	3	
		ナノバイオラボ２Ｂ		6	後	3	
		ナノバイオ卒業研究		15	集中	4	
以上70単位必修							
選択必修科目Ａ群	専門科目	Ａ１：バイオサイエンスパック					
		ベーシック科目	分子生物学	2	C	1	
			遺伝子工学・バイオテクノロジー	2	D	2	
			生化学	2	C	1	
			細胞工学	2	D	2	
		アドバンスト科目	薬理学	2	B	2	
			発生学	2	B	2	
		A2：ナノサイエンスパック					
		ベーシック科目	電気化学	2	A	2	
			半導体・デバイス科学	2	A	2	
			無機化学	2	C	1	
			量子物理学	2	D	1	
		アドバンスト科目	ナノテクノロジー	2	B	2	
			生物無機化学	2	C	2	
		A3：ナノバイオサイエンスパック					
		ベーシック科目	生命物理化学	2	A	1	
			バイオ高分子化学	2	C	1	
			バイオ計測工学	2	B	2	
			生命分析化学	2	D	2	
		アドバンスト科目	生命化学１	2	A	3	
			生命化学２	2	A	3	
		A4：ケミカルサイエンスパック					
		ベーシック科目	有機電子論	2	D	1	
			有機反応各論	2	A	1	
			構造有機化学	2	C	1	
			有機化学と分光法	2	B	1	
		アドバンスト科目	生物有機化学	2	D	2	
			有機合成化学	2	B	2	
以上選択必修科目Ａ群のうち、24単位以上選択必修 ただし、いずれか1パックについてはすべて修得すること							
キャリア科目	ベーシック・キャリアデザイン			2	前	1	選択必修科目の単位数に充てることができない

授業科目			単位数	期別	配当年次	備考
選択必修科目B群	応用専門科目	B1：先端テクノロジーパック				
		ケミカルバイオロジー	2	B	3	
		バイオセンシングと環境	2	C	2	
		アドバンストマテリアル	2	D	2	
		先端情報テクノロジー	2	集中	3	
		Ｂ２：メディカルサイエンスパック（他大学連携科目）				
		メディカルサイエンス概論	2	A･集中	2	
		医療テクノロジー	2	後	3	
		創薬テクノロジー	2	A･集中	3	
		メディカルバイオテクノロジー	2	後	2	
		Ｂ３：サイエンスマネジメントパック（企業連携）				
		企業戦略・テクノロジー概論	2	後	2	
		医療関連研究開発論	2	集中	3	
		バイオ・食品関連研究開発論	2	後	2	
		ナノ・材料関連研究開発論	2	集中	3	
		Ｂ４：コーディネーターパック				
		知財マネジメント	2	後	3	
		シーズ／ニーズマッチング	2	後	3	
		国際産学コーディネーター	2	後	3	
		インターンシップ	2	集中	3	
以上選択必修科目Ｂ群のうち、14単位以上選択必修						
選択必修科目C群	教養科目	科学と健康	2	後	2	
		科学と情報技術	2	前	2	
		科学とエネルギー・環境	2	集中	2	
		科学と芸術・哲学	2	集中	2	
		科学と歴史・文学	2	前	3	
		科学と産業政策	2	集中	3	
以上選択必修科目Ｃ群のうち、6単位以上選択必修						

必修科目		選択必修科目	
教養科目	2単位	教養科目	6単位以上
基礎科目	21単位		
基礎専門科目	8単位		
専門科目	39単位	専門科目	24単位以上
		応用専門科目	14単位以上
卒業必要単位数			128単位以上

フロンティアサイエンス学部履修登録科目の単位制限に関する内規

〔平成21年３月26日
合同教授会制定〕

改正　平成25年３月８日

フロンティアサイエンス学部の学生が履修する授業科目において、登録単位制限を受ける科目及び単位数は次のとおりである。なお、下記表中の「授業科目表」とは、自己の入学年度に適用される授業科目表をいう。また、前期履修登録及び後期履修登録を合わせた単位数に対して登録単位制限を受けるものとする。

	１年次	２年次	３年次	４年次
フロンティアサイエンス学部 授業科目表に記載の科目	通年で合計 41単位以内	通年で合計 40単位以内	通年で合計 40単位以内	通年で合計 40単位以内

ただし、次に掲げる科目の単位については、上記表の制限を受けない。
①「インターンシップ」（平成23年度以降入学生に適用）
②「エリアスタディーズⅠ～Ⅴ」（平成25年度以降入学生に適用）

附　則
この内規は、平成21年４月１日から施行する。
附　則
この内規は、平成23年４月１日から施行する。
附　則
この内規は、平成25年４月１日から施行する。

Ⅲ．履修登録・試験・成績について

□　履修登録

１．授業科目の選択及び履修について

授業科目には、必修科目や選択必修科目等の区別があります。

必修科目は、卒業するために必ず修得しなければならない科目ですので、配当した年次で修得するように努めて下さい。また、選択必修科目は、区分された授業科目群の中から、決められた単位数以上を修得しなければならない科目です。単位修得の成否は、次年度以降の履修に影響を及ぼすことがありますので、本書「履修要項」を熟読し、履修要件、「ナノバイオ卒業研究」履修要件、卒業要件を理解した上で、慎重に履修科目を選択して下さい。

２．基礎体育学演習について

「基礎体育学演習」は通年科目ですので、履修登録は前期のはじめに行って下さい。授業の内容は、前期は共通の講義・実技（新体力測定、トレーニング講習会、テニス等実技）で、後期はいくつかのメニューから選択する方式になります。選択の方法等については、授業の中で説明します。

なお、身体に障害がある等、やむを得ない理由がある場合には、授業の内容について、個別相談の上で設定しますので、ポートアイランドキャンパス事務室に事前に申し出て下さい。

３．履修科目の登録の制限

効果的な学習を行うために、１年間に履修科目として登録することのできる単位数を、１年次は41単位、２年次以降は40単位に制限しています。各年次とも、この単位数を超えて履修科目を登録することはできません。

４．履修登録の方法・履修登録期間

前期のはじめにクォーター科目（**Ａ期**、**Ｂ期**）、**前期科目**、**通年科目**について、後期のはじめにクォーター科目（**Ｃ期**、**Ｄ期**）と**後期科目**について、履修を希望する科目を WEB（My KONAN）で登録します。登録には、ユーザー ID とパスワードが必要です。操作方法については、別に配付する冊子を参照して下さい。期日までに登録を行わなければ、その年度は授業や試験を受けることができません。

「ナノバイオ卒業研究」の履修要件を満たしている４年次学生は、「ナノバイオ卒業研究」（集中講義）があらかじめ登録されています。履修登録画面で確認の上、履修を希望しない場合は、履修登録画面より削除して下さい。

履修登録期間内は修正登録ができ、時間割はいつでも画面で確認できます。履修登録期間内に学生時間表を印刷したものを指導主任に見せて相談の上、期日までに登録して下さい。

なお、前期に履修登録を完了した通年科目については、後期に登録の修正や削除をすることはできませんので注意して下さい。

≪履修登録期間≫

前期	４月11日（金）９：00～４月17日（木）23：59
後期	９月23日（火）９：00～９月29日（月）23：59

※上記期間中、深夜３：00～５：00の時間帯は、履修登録ができません。

履修については、本書23ページ～37ページの「Ⅱ．履修について」で詳しく説明してあります。各自で熟読し、履修登録前に再度確認をして下さい。

５．履修登録の確認（エラーの確認と修正）

WEB による履修登録でエラーが出た授業科目は登録されませんので、エラーがない状態で履修登録を完了して下さい。また、履修登録期間終了後、エラーのある場合は該当者を掲示しますので、対象者は以下の期間内に必ずポートアイランドキャンパス事務室に申し出て指示を受けて下さい。

≪学生別時間割表エラー修正期間≫

前期	４月23日（水）・24日（木）９：00～17：00
後期	10月８日（水）・９日（木）９：00～17：00

６．学生別時間割表の確認と提出

履修登録完了後は必ず学生別時間割表を印刷し、登録内容を確認の上、署名（サイン）して以下の期間内にポートアイランドキャンパス事務室に提出して下さい。提出がない場合、後日、登録内容について疑義があっても一切受け付けません。

≪学生別時間割表提出期間≫

前期	４月23日（水）９：00～29日（金）18：00
後期	10月８日（水）９：00～14日（火）18：00

□　試験

試験には、定期試験と追試験があります。なお、再試験は実施されませんので注意して下さい。

【定期試験】

定期試験とは、各期末に行われる試験をいいます。今年度は、下記の日程で行う予定です。また、定期試験等の試験開始時刻は、授業開始時刻と異なる場合があるので、試験時には試験時間表で確認して下さい。

クォーター科目	A期	５月30日・31日
	B期	７月24日～８月２日
	C期	11月11日・12日
	D期	１月19日～24日
前期科目		７月24日～８月２日
後期科目		１月19日～24日

【追試験】

追試験とは、定期試験を受けることができなかった者を対象に行う試験をいいます。ただし、受験できなかった理由が「学修に関する取扱い」（73ページ）に規定されている事由に該当する場合に限り認められます。追試験の希望者は、受験できなかった授業科目の試験日を含めて３日以内にポートアイランドキャンパス事務室に願い出なければならないので注意して下さい。

※就職試験 (筆記試験、面接試験等。会社説明会や企業セミナー、内定者懇親会等は除外）と学内

試験が重なり、やむを得ず学内試験を受けることができなかった場合は、追試験を申請することができます。その場合は必ず事前にポートアイランドキャンパス事務室に相談して下さい。

□　成績評価

成績評価は、学期中のレポート、定期試験（又は追試験）、授業参加態度（出席や予・復習の状況）等を勘案して行います。詳細は科目によって異なりますのでシラバスを確認し、不明な点は各科目の担当教員に直接尋ねて下さい。

また、理由の如何を問わず、実験や演習に関する授業の３分の１以上を欠席した者は、原則として単位の修得が認められませんので注意して下さい。この場合は、成績は「欠席」として記載されます。

成績は、絶対評価により次のように５段階に分けて評価します。

成績評価	成績評価点
秀	90点以上
優	80点以上89点以下
良	70点以上79点以下
可	60点以上69点以下
不可	59点以下

なお、総合的に成績を把握するために、授業科目ごとの成績評価点に対応して GP（Grade Point）を算出してお知らせします。GP には一般に、絶対 GP と相対 GP がありますが、本学ではすべての授業科目の成績は絶対 GP に換算されます。絶対 GP は、100点満点で評価された授業科目の成績評価点に対応して以下のように換算された評点です。

成績評価点	GP（評点）
90点以上	4
80点以上89点以下	3
70点以上79点以下	2
60点以上69点以下	1
59点以下	0
欠席	−

□　成績評価

個々の授業科目の GP を、履修登録した全授業科目について平均した数値指標が GPA（Grade Point Average）で、下の式で算出されます。履修登録した全授業科目のうち、優秀な成績を修めた科目が多いほど GPA は４に近づき、逆に芳しくない成績の科目が多いほど０に近づきます。

GPA ＝［(科目の単位数）×（科目の GP）の総和］／［(科目の単位数）の総和］

「GPA は学修指導に用いられるほか、学生実験における希望優先順位や、奨学金の応募優先順位等の決定に用いられることもありえます。

□　成績発表

成績発表は「学修簿」で年2回行います。在学生は「My KONAN」を使用して、成績の閲覧が可能です。成績公開の日程は別途掲示等で連絡します。

前期成績：2014年９月上旬（決定次第、掲示等で連絡します。）

後期成績：2015年３月中旬（決定次第、掲示等で連絡します。）

成績発表後一定期間、学修簿を１人１部無料で配付をします。詳細は別途掲示等で連絡します。

Ⅳ．重要なメッセージ

～ポートアイランドキャンパスでの学びについて～

FIRST での学び　～ Hidden Curriculum（第２のカリキュラム）～

１．はじめに

みなさんが高校卒業後の進路として FIRST を選ばれた理由は何でしょうか。生命を学びたい、化学が好き、などの学問分野を理由としてあげる人もいれば、実験設備が整っている、マイラボがある、などの学修環境をあげる人もいるでしょう。いずれにしても、FIRST を選んだ理由の多くは、突き詰めれば、「なにがしかの分野の専門家としての素養を身につけたい。それには、この学部は合っていそうだ。」ということになるでしょう。

では、どうして「専門家としての素養」を身につけたいのでしょうか。もちろん、学ぶこと自体が楽しい、ということもあるでしょうが、やはり、大きな理由は、大学卒業後あるいは大学院修了後に就職するため、さらには、就職先でその力を発揮して就業し続けるためだといえるでしょう。

一方、企業が大学生に求める力は「専門家としての素養」だけではありません。下のグラフは、甲南大学が企業約110社を対象に実施した「最も重要と考える力を３つ選ぶ」という形式のアンケート集計結果です。特に、「行動力・実行力」「バイタリティ・熱意」「協調性」「論理的思考力」「物事に対する理解力」「常識・マナー」「プレゼン能力・表現力」「幅広い一般教養」などが必要とされていることがわかると思います。

（「高度な専門知識」や「即戦力の技術・技能」の回答数が少ないのは、このアンケートが理系に限定したものではないためだと思います。理系に特化した職種、特に研究職では、「高度な専門知識」や「即戦力の技術・技能」などが強く求められるのは間違いないでしょう。）

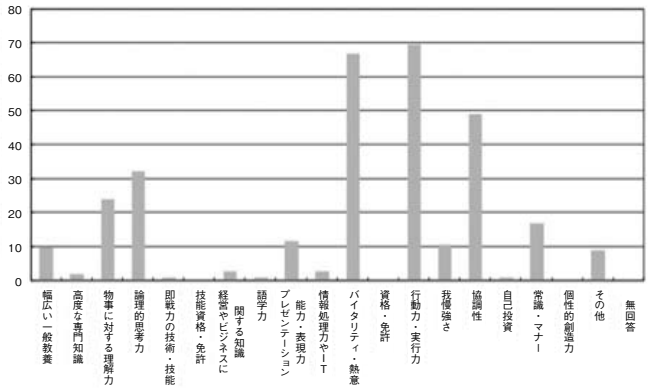


図　企業で必要とされる資質や能力（各社３つまで回答）

つまり、いつかは就職するであろう皆さんの大学での学びは、「専門的な学び及びそれに付随する学び」と「それ以外の学び」の両輪が揃って、はじめて、完成したものになるのです。両者の間に完全に線を引くことはできませんが、前者は主に「論理的思考力」や「物事に対する理解力」を養います。後者では主に「協調性」や「常識・マナー」などが養われるといえるでしょう。また、「バイタリティ・熱意」や「行動力・実行力」はどちらとも関係があるといえるでしょう。

さて、「専門的な学び及びそれに付随する学び」は講義・演習・実験などの授業と、マイラボや図書室での自主的な学修によって成り立ちます。一方の「それ以外の学び」は、授業とは直接には無関係です。では、どのような機会で学び、企業が必要とする力を身につけていけば良いのでしょうか？

実はFIRSTは、このような力をカリキュラム以外の部分で身につけていけるようデザインされています。これをHidden Curriculum（表には出ない第２のカリキュラム）と呼びます。科目表にもシラバスにも表れないHidden Curriculum。どこに隠されているのかといえば、「オールインワン・キャンパス」であるこのポートアイランドキャンパスでの、みなさんの日常生活です。日常の大学生活を通じて、企業が求める力が身に付けられるようデザインされているのです。

ここには、みなさんが日常の大学生活の中で、いつ、何を意識すれば、Hidden Curriculumを通じて社会で活躍できる力が身につけられるのか、また、そのために、教職員がどのようにサポートする心づもりをしているのか、をまとめてあります。ぜひ、日々の意識を高くもって、FIRSTでの学びをより有意義なものにしていただきたいと思います。

２．FIRST生らしさ＝企業が求める能力や資質

さきほどのグラフからわかるように、企業が大学生に求める力のうち「それ以外の学び」によって身に付けなければならないものは、「協調性」も「常識・マナー」も「バイタリティ・熱意」も、結局は社会人としての基礎力だといえるでしょう。そして、その社会人としての基礎力をもつということは、“みなさんが、教職員とともに生活し学問にチャレンジする、このポートアイランドキャンパスで、互いに気持ちよく過ごせ、互いに刺激し合って向上していく”という姿勢に他なりません。

一言で言えば、FIRST生らしくあれ、ということになります。

もう少し具体的に書きましょう。FIRST生らしいというのは、FIRSTの教育基本方針や学位授与方針に照らせば、「研究者としての素養がある」ということになります。研究者になりたいかどうか、実際に研究者になるかどうか、は関係ありません。研究者に求められる力を総合的にみると、社会で活躍するために必要な力をすべて含んでいる、だから、研究者としての力は、職種を問わず社会に出てから役立つものなので、研究者の卵として学生を育てる、というのがFIRSTの考え方です。したがって、FIRST生らしさ、というのは、研究者らしさなのです。

日常生活を通じて研究者らしさを身につけることは、将来の就職活動に向けてとても大切なことです。逆に言えば、普段は研究者らしくないふるまいや言動をしていて、就職活動の時期だけ研究者らしくなる、ということはできません。人事担当者には、付け焼き刃のふるまいや言動は、すぐに見抜かれることでしょう。

研究者らしさを身につけるのは、何も就職や就業に必要だからという理由だけではありません。大学を卒業する者であれば、いや、大学生であれば身に付けて当然のものです。「～のために必要だから」という外的因子だけではなく、自律的にFIRST生らしさを追求し実践するのが「誇り（プライド）」

というもので、その積み重ねが伝統だといえます。

次に、マイラボと事務室の２箇所を例にとって、FIRST 生らしさをより具体的に考えていきましょう。

３．マイラボでの過ごし方

マイラボは研究ゾーン内にあります。だから「ラボ（研究室）」という名前がついているのです。したがって、マイラボは、実際の研究室と同様に、研究者らしく成長するための場だと考えて下さい。

マイラボでの過ごし方に関して、ルールを細かく決めたり、細かく指導したりするつもりはありません。マイラボは、みなさんの自主的な活動の場であり、その自主的な雰囲気を尊重したいからです。行動の規範は、FIRST 生らしい（＝研究者らしい）かどうか、この１点です。

自分の行動が FIRST の学生らしいかどうか、うまく判断ができないという人は、このように想像力を働かせてみましょう。

ある企業の方が、あるいは他の大学や研究機関の方が、マイラボを訪れたとします。実際に、訪れる方は大勢いらっしゃいます。マイラボのような施設は世界的にも珍しいからです。世界初かどうかは確かめようがありませんが、少なくとも、他大学に以前からマイラボのような施設があったというような話は、誰も聞いたことがありません。また、単に珍しいだけでなく、最近はラーニングコモンズと呼ばれる自主的な学修スペースが脚光を浴びていて、いろいろな大学が設置し始めています。マイラボはその先取であり、しかも各学生の専用席があるという点では、未だに独創的で進んだ設備といえます。

話がそれましたが、このような背景もあり、ポートアイランドキャンパスを訪れる研究・教育関係者は大勢いらっしゃるわけです。その方々に、見ていただいた時に、研究者として誇らしいか、恥ずかしいか、これが皆さん自身で考えなくてはならない、最も大事な行動規範ではないかと思います。

誇らしいマイラボをつくりあげているみなさんであれば、就職活動などはただの通過点にしか過ぎないでしょう。逆に、恥ずかしいマイラボにしてしまっている人は、企業の方々のお目に叶うようになるためには、就職活動に際して自らをよく見直す必要があります。ただし、それは日々、誇らしいふるまいを積み重ねて来た人たちに敵うものではありません。

勘違いしないで欲しいのは、就職活動の話はわかりやすく例に挙げているだけで、それは最低限の次元の話だということです。みなさんの FIRST 生らしさ（＝研究者らしさ、社会人らしさ）をはかる尺度の一つと考えて下さい。

次に、波及効果の話をしましょう。学外の方々に見ていただいたときに、誇らしいマイラボであれば、間違いなく高い評価を受けます。みなさんが、FIRST が、そして甲南大学が、です。そのよう

な一人一人からの小さな評価の積み重ねが、みなさんの、FIRST の、そして、甲南大学の社会的評価を決めていくのです。FIRST の新しい伝統を築き、甲南大学の未来の評価を決めるのは、みなさんの誇り（プライド）なのです。

特に、FIRST は歴史の浅い学部ですので、「FIRST の学生っていいらしいよ」、というようなたった一言の、うわさ話程度の評判が、FIRST とみなさんに与える影響が、とても大きいのです。在学中も、そして、社会人になってからも、FIRST の評価が高ければ、皆さんにとって有形無形のメリットがあることは容易に想像できることと思います。繰り返しになりますが、みなさん一人一人が、FIRST の伝統を積み上げていってくれることを願っています。

万一、このような話を読んでも、自分にはどうでもよいことだ、自分の就職活動が苦労の多いものになってもそれはその時のことだ、大学や学部の評価は自分とは無関係だ、と考えている人がいるといけないので、少し補足します。

みなさんは、例えば、就職活動に際して、甲南大学の卒業生たちが築いてきた評価（ブランド力）を、素点としてもっていて社会から一定の評価を受けることができます。これは入試をクリアした見返りといえるかもしれません。でも、これからの甲南大学の評価（ブランド力）はみなさんの誇り（プライド）にかかっているのです。未来の甲南大学生、未来の FIRST 生の素点は、みなさんの誇り（プライド）にかかっているわけです。自分が受けた以上の恩恵を未来に引き継いでいきませんか。

もう一点。社会人らしさを身につけるということは、ある意味では、集団の中で生きる・活きるということです。一部の極めて尖った才能をもつ人たちは、他人と関わらずとも科学、芸術、文化などに貢献することができます。しかし、それは例外で、普通は、他人とかかわり合い、集団の中で仕事を進めていくのが一般的です。とすれば、社会人としての評価基準のひとつは、その人のふるまいや言動が集団に対してどのように作用するか、ということになります。ある人のふるまいや言動は、必ず、その集団に対してポジティブかネガティブのどちらかの方向に作用します。些細なことであっても、影響がまったくないというものは一つもないんです。もちろん、些細なふるまいや言動は、直ちにその作用について判断できるとは限りません。しかし、そのふるまいや言動を誇大化してみると、そして、そのなりゆきや結末を想像してみると、もたらされる作用がポジティブかネガティブか、すぐに判断がつきます。自らの無責任なふるまいや言動が、マイラボの雰囲気に悪影響を与えているとしたら、さらには、それがいずれは目に見える大きな結果をもたらし、学外の方々の目に触れるようなことがあるとすれば、各自の言動やふるまいが、「他人には関係ない」とはいえないということがわかると思います。

これを書くと、FIRST の高い理念とはかけ離れた話になってしまいますが、念のために書きます。言うまでもなく、「明らかにネガティブな言動やふるまい」、は論外です。一例を挙げると、「マイラボのデスクの上にマンガが置いてある」、また、「見学者がいても、マンガを読み続けている」などは論外でしょう。この見学者に、いくら、マイラボは自主的な学修スペースだと言っても、「うまく機

能しておらず遊び場になっている」と思われることは必至です。たとえ、マンガを読んでいるのがその一時の行動であったとしてもです。そして、この見学者から噂が社会に広まれば、それを打ち消して良い評価を獲得しなおすために、どれだけの時間と努力が必要か、想像できるでしょうか。

ここでは、FIRST の特徴的なスペースであるマイラボを例に書きましたが、もちろん、マイラボ以外の場所も同じです。

図書室、カフェテリア、講義室、実験室。人目に触れる可能性がある場所では、みなさんのプライドが試されていると考えて下さい。

例えばカフェテリア。みなさんが企業の就職担当者だとしたら、昼食のピーク過ぎに訪れた食堂で、学生たちがトランプをしている大学と、パズドラをしている大学と、ノートや参考書を広げて話をしている大学とがあれば、どの大学から採用したいと思いますか？ 昼休みの雰囲気って、大学によってまったく違うんですよ。学生たちが成長していく大学か、あるいは、その逆か、一目瞭然なんです。皆さんでも、すぐにわかると思います。機会があれば他大学を見学してみるといいでしょう。上智大学なんかは、ぴんと張った澄み切った雰囲気ですよ。FIRST の雰囲気は悪くはありません。生まれ始めている伝統を、より良く引き継いでいっていただきたいと思います。

必ず人目に触れる場所、例えば通学路は、学外であっても、さらに大切な場所といえるかもしれません。皆さんは問題ないと思いますが、ポートライナーの中で騒ぐ、大声でお馬鹿な会話をする、スパコン前の歩道にゴミを捨てる、などの行為は、すぐに FIRST の学生だと周辺の方々に知れるものです。ここでも「恥ずかしい」か「誇らしい」かです。皆さんの、自覚に期待します。

そうはいっても、プライドは横に置いておいてリラックスしたいときもある。その通りだと思います。ポートアイランドキャンパスでは、講義等のないときは202講義室を自由利用教室として開放しています。詳しくは、20ページをご覧下さい。

４．学びの場としての事務室

事務室は、みなさんの学修や大学生活をサポートする部署です。教員のサポートと比較すると、事務室からのそれは、学修については少し間接的で、大学生活に関してはより直接的といえるでしょうか。ただ、みなさんが理解しなくてはいけないことは、事務室のサポートがなくては、学修も大学生活も成り立たないということです。

ところが、皆さんの中には、教員に対する態度とまったく異なる問題ある態度でのぞむ者もいるようです。

なぜでしょうか。サポートするのが仕事で、感謝する必要はないということでしょうか。それなら、教員も授業や学修のサポートをするのが仕事なので同じです。まさか、教員は成績をつけるけど

も、職員は評価をつけないからということなのでしょうか？ もし、職員も評価簿を付けることになれば、きちんとふるまえるのでしょうか？

上記の問題ある態度というのは、具体的には、締め切りを守らない、約束の日時を守らない、迷惑をかけても謝罪の意を示さない、ため口で依頼する、オフィス時間が終了しているのに押し掛ける（ポートアイランドキャンパス事務室はお役所的に時間を区切っているのではありません、Close 以降にはその時間の仕事があるのです）、などです。

このようないくつかの例を見るだけで、前述の社会人らしさ（= FIRST 生らしさ）に真っ向反対する行動であることが分かると思います。と同時に、事務室できちんとふるまうことができれば、社会に通用する人間に近づいているということがわかると思います。

つまり、事務室でのふるまいや言動は、社会人らしくなるためのキャリア活動の一環といえるでしょう。就職活動の時期になって、あわてて言葉遣いなどを直そうとしたり、採用担当者とのやり取りのマナーを身に付けようとしても、難しいですよ。それよりも、普段からきちんと FIRST 生らしくふるまえるよう心がけましょう。

職員さんには、学生対応の際には、キャリア教育の一環ということを踏まえて、みなさんのふるまいや言動について指導をしていただけるよう、今後、「学生部委員会」からお願いします。したがって、未だ FIRST 生らしくなれていない学生は、その都度、繰り返し何度も、細やかに指導を受けることになると思います。ぜひ、自分の将来のためにわざわざ時間と割いて心を砕いて指導していただいていることに感謝の念を示して、次回以降に活かして下さい。感謝の気持ちを示せない学生には、学生部委員から追って指導があることと思います。

５．さいごに

以上、ポートアイランドキャンパスでの大学生活そのものが、みなさんがよき大学生ひいては社会人として通用する力を身につける、キャリア教育につながっている、という話を書きました。また、その力を身につけるためには、「こうしなさい」「こうしてはいけない」というようなマニュアルベースの考え方ではなく、FIRST 生として他人の目に触れたときに誇らしいと感じられるようなプライドベースの考え方で、自律的にふるまうことが大切だということを書きました。そして、そのようなふるまいや言動は、最も直接的には自分の成長というかたちで、少し間接的には FIRST 生に対する評価を通じて自分たちの就職活動が左右されるというかたちで、さらに間接的には将来の甲南大学および FIRST の評価というかたちで自分たちに跳ね返ってくるということを書きました。

FIRST を巣立った10年後のことを想像してみましょう。

「後輩たちのおかげで FIRST 卒であることを誇りに感じられる。」

「いまの後輩たちのことは、同じ FIRST 卒だとは思いたくない。」

　どちらの未来になるのか？　それを決めるのは、みなさん一人一人のほんの少しのプライドの持ち様です。今日より明日、明日よりもあさって。ほんの僅かでも構いません、ミクロスパーテル一杯のプライドを心に盛っていきましょう！

＝＝＝学生の皆さんへ「授業を受けるにあたって」＝＝＝

甲南大学ＦＤ委員会資料より（一部改訂）

授業は知識を深めるだけでなく、自分でも気づかない新しい自分の興味に出会える貴重な時間です。折角の機会を逃さないよう、充実した90分の授業になるようみんなで協力しましょう。

そのための約束事が「マナー」です。自律的に学ぶ姿勢があればマナーは自然に守られるものです。ですから、マナーの内容を一つひとつ細かに記すことはここでは控えますが、参考のため、皆さんが陥りやすい「マナー違反」についてまとめておきます。甲南生のほとんどはマナーを意識できる紳士･淑女ではありますが、ときどきこの文章を読み返し、自分自身の受講態度を振り返ることによって、さらに充実した90分を過ごせるよう心がけて下さい。

私語について

１．私語は周りの学生達の迷惑になります。

私語は当人たちが思っている以上に大きな音として周りに聞こえています。周囲の人たちには、講義内容が聞き取りにくい、講義に集中しにくいなどのかたちで、迷惑が掛かっているのです。また、授業内容の分からないところ、聞き取れなかったところ、出された課題の内容などを周囲に質問する人がいますが、そのあいだ、話しかけられている人は授業を聴いたり集中して物事を考えたりすることができません。私語の内容が授業に関することであってもなくても、周りの迷惑になるということを肝に銘じて下さい。

２．私語は教員の迷惑になります。

教員は皆さんの反応を見ながら授業を進めています。話題が皆さんの興味を引いているか、内容が理解されているか、などを感じ取ろうとしながら話をしているのです。私語は、教員がそういった反応を読み取る上で大変な“雑音”となります。ひどい場合には、授業の進行に支障をきたしかねません。私語を止めるように注意することもありますが、それによってさらに授業の流れが中断されてしまいます。つまり、私語は授業の質を下げることにもつながりかねないのです。そうなっては、真剣に授業を受けている周りの人にとっても大変な損失です。

３．私語は自分にとってもマイナスです。

前述のように、私語はまわりの迷惑になりますが、一番損をしているのは学ぶ機会を放棄してしまっている自分自身だと言えるでしょう。では、どうして私語をしてしまうのでしょうか。「授業がおもしろくないから」という人がいます。しかし、大学での学問には、話を少し聞いただけでは、すぐにはおもしろさは分からない、というものもたくさんあります。おもしろく感じられないからといって、私語をしていては、ますます学問のおもしろさを発見する機会を遠ざけるだけで、何の解決にもならないことは皆さんもお分かりのことと思います。内容を本当に理解し、考え、おもしろさを感じるためには、はじめから終わりまで授業をじっくり聴くことは大前提です。

４．正しい学ぶ姿勢からは私語は生まれない。

授業を一生懸命に聴こうと思っているのだけれど、気がつくと隣の友人と話をしてしまっている…。なかにはそんな人もいるのではないでしょうか。そういう人は、一生懸命に聴こうという「きもち」だけでなく、自然と聴けてしまう「かたち」も身につけてみてはいかがしょう。「常に話し手の方を見て」「聴き取ったことをメモに取る」姿勢で授業に望めば、ぐんと授業に集中することができて、うっかり私語をしてしまうこともなくなるのではないしょうか。

遅刻について

授業が始まる時間になって（ひどいときには過ぎてから）パラパラと学生達が教室に入ってくる…。そのような光景が珍しくありません。しかし、授業開始時刻は、文字通り授業を開始する時刻ですから、その時刻を目指して教室に入ってくるというのではいけません。授業開始時刻には、席について授業を受ける準備を整えておきましょう。

５分や10分くらい遅刻したところで90分授業のうちのほんの１割程度にしか過ぎない。大きな問題ではない…と考えている人もいるかもしれません。しかし、そうではありません。授業の冒頭では、その日の講義内容の概要、要点、意義、背景（前回の授業とのつながりなど）などが話される場合が多く、それらを聞き逃すと、授業内容を理解するのが本当に困難になります。教員は、「遅刻して冒頭の話を聞いてなかった学生に、この話は理解できないだろうな…」と残念に思いながら授業を進めることも少なくありません。授業は最初が肝心なのです。遅刻しないようにしましょう。

ときには、やむを得ない理由で遅刻することもあるかもしれません。そのような場合には、できるだけみんなの迷惑にならないように静かに教室に入りましょう。教卓の前を堂々と横切っていくなどは論外です。

欠席について

通常の授業では欠席の連絡をする必要はありませんが、ゼミなどの少人数科目や、演習などで自分の発表がある場合などは、事前に欠席する旨を連絡するのが礼儀です。欠席の連絡は、担当教員に直接とって下さい。

教室の出入りについて

授業中、何人かの学生が教室から出たり、教室に戻ったりする姿を見かけることがあります。「気分が悪い」「トイレに行きたい」「何となく外の空気が吸いたい」……理由は人それぞれでしょうが、教室内を人が立ち歩いているというのは、教員にとっては大変気になります。また、教室の雰囲気を乱します。それに何より本質的なことは、外に出ている間、その人は授業を聞き逃してしまい、すぐにはその内容を取り戻すことはできないということです。ですから、どんな理由であれ（たとえみなさんが正当だと思うような理由であっても）授業中は外に出るべきではないのです。

もちろん外に出るのを止めることは誰にもできません。病気やトイレなどやむを得ない場合もあるでしょう。しかし、問題は「外に出てもよい」とか「外に出てはだめ」とかいうことではなくて、外に出れば「自分が損をする」ということなのです。ですから、「損をしないよう」「席を外さなくてもよいよう」に、授業に望む準備をできるだけ万全にして下さい。

飲食について

ものを食べたり、ガムをかんでいたり、というのが授業を受けるのにふさわしい姿勢だと考える人はほとんどいないでしょう。もしいるのであれば、考えを改め、今後そういう行動は慎んで下さい。

飲み物については、いろいろな考え方がありそうです。机の上に飲み物を置いているのは失礼にあたる、必要であれば授業前に飲んでおけばよいのであって授業中に飲む必要はない、という考えもあるでしょう。一方、のどの渇きをいやすことで集中して講義が聴けるようになるのであれば飲んでも差し支えない、という考えもあるでしょう。担当教員の考え方の違いだけでなく、授業形態によっても事情が異なってくるでしょう。飲み物については、それぞれの授業の方針を確かめて下さい。

ただし、言うまでもありませんが、たとえ飲み物が許されている授業であっても、空き容器などは各自で責任をもって廃棄して下さい。机の上に、ペットボトルやビニール袋が放置されているのは、マナー以前の問題です。

帽子

教室内では帽子は取るというのが一般的にマナーとされています。できるだけ取るようにしましょう。事情により取りたくないという人は、（差し支えない範囲で結構ですから）担当教員に相談すれば理解が得られることと思います。授業毎に教員に説明するのは避けたいという人は、学生相談室でも対応の相談に乗ってもらえます。

Ⅴ．時間割

2014年度入学生用

【時間割表についての注意事項】

授業コードは、授業個別のコードです。履修登録に必要な場合があります。

授業科目名の後ろについている(前)は、前期、(後)は、後期、何もついていないのは、通年科目を表しています。(別紙授業科目一覧表に曜日・時限を表記)

配当年次は、履修できる学年を表し、自分の年次以下の科目を履修できます。

表中の★は、受講するクラスが指定されており、あらかじめ自動的に履修登録されている科目を、★は、週に2回以上講義がある科目を表しています。

クォーター科目は、A期(4月～ 5月)・B期(6月～ 7月)・C期(9月～11月)・D期(11月～ 1月)に分かれており、授業科目名には、(A期)・(B期)・(C期)・(D期)と記載されています。

集中講義の日程は、別途「My KONAN」や掲示板でお知らせします。

【授業時間帯】
1時限目： 9:00 ～ 10:30
2時限目： 10:40 ～ 12:10
3時限目： 13:00 ～ 14:30
4時限目： 14:40 ～ 16:10
5時限目： 16:20 ～ 17:50

1限 (9:00～10:30)

	授業コード	授業科目名	配当年次	担当者	教室
月	91043	★ 有機電子論 (D期)(後)	1	村嶋貴之	210
	91045	★ 構造有機化学 (C期)(後)	1	甲元一也	210
	91028	★ 細胞工学 (D期)(後)	2	西方敬人	201
	91036	★ 生物無機化学 (C期) (後)	2	藤井敏司	201
	91044	★ 有機反応各論 (A期)(前)	2	松井 淳	201
	91046	★ 有機化学と分光法 (B期)(前)	2	藤井敏司	201
	91030	★ 発生学 (B期)(前)	3	西方敬人	202
	91031	★ 電気化学 (A期)(前)	3	赤松謙祐	202
火	91033	★ 無機化学 (C期)(後)	1	藤井敏司	210
	91034	★ 量子物理化学 (D期)(後)	1	鶴岡孝章	210
	91032	★ 固体光化学 (A期)(前)	2	鶴岡孝章	201
	91035	★ ナノテクノロジー (B期)(前)	2	高嶋洋平	201
	91038	★ 高分子化学 (C期)(後)	2	長濱宏治	201
	91047	★ 生物有機化学 (D期)(後)	2	甲元一也	201
	91048	★ 有機合成化学 (B期)(前)	3	村嶋貴之	202
	91041	★ 生体分子工学 (A期)(前)	3	三好大輔	202
水	91016	ナノバイオサイエンス序論 (前)	1	三好大輔	210
	91027	★ 生化学 (C期) (後)	1	臼井健二	210
	91040	★ 生命分析化学 (D期)(後)	1	三好大輔	210
	91037	★ 生命物理化学 (A期)(前)	2	中野修一	201
	91039	★ バイオ計測工学 (B期)(前)	2	中野修一	201
	91050	★ バイオセンシングと環境 (C期)(後)	2	松井 淳	201
	91051	★ アドバンストマテリアル (D期)(後)	2	鶴岡孝章、林 高史	201
	91055	★ 創薬テクノロジー (A期(前)・集中)	3	川上純司、二木史朗	202
	91062	シーズ／ニーズマッチング (後)	3	荻野千秋	202
木	91014	バイオサイエンス序論 (前)	1	西方敬人	210
	91025	★ 分子生物学 (C期)(後)	1	川内敬子	210
	91026	★ 遺伝子工学・バイオテクノロジー (D期)(後)	1	川上純司	210
	91029	★ 薬理学 (B期)(前)	2	川上純司	201
	91042	★ 生命機能科学 (A期)(前)	2	長濱宏治	201
金	F1901	◆ 基礎体育学演習(FIRST)(後)	1	吉本忠弘	→
	91010	数学及び演習(前)	1	臼井健二、川上純司	→
	91050	★ バイオセンシングと環境 (C期)(後)	2	松井 淳	201
	91053	★ メディカルサイエンス概論 (A期(前)・集中)	2	藤井敏司、三宅正人	201

2限 (10:40～12:10)

	授業コード	授業科目名	配当年次	担当者	教室
月	91011	英語及び演習	1	柴田英智	210
	91037	★ 生命物理化学 (A期)(前)	2	中野修一	201
	91039	★ バイオ計測工学 (B期)(前)	2	中野修一	201
	91057	企業戦略・テクノロジー概論 (後)	2	宇野兵衛	201
	91049	★ ケミカルバイオロジー (B期)(前)	3	三好大輔	202
	91063	国際産学コーディネーター (後)	3	Manoj L. SHRESTHA	202
火	91025	★ 分子生物学 (C期)(後)	1	川内敬子	210
	91026	★ 遺伝子工学・バイオテクノロジー (D期)(後)	1	川上純司	210
	91029	★ 薬理学 (B期)(前)	2	川上純司	201
	91042	★ 生命機能科学 (A期)(前)	2	長濱宏治	201
	91059	バイオ・食品関連研究開発論 (後)	2	岡 茂範	201
	91061	知財マネジメント (後)	3	藤田典彦	202
	91069	科学と歴史・文学 (前)	3	大津真作	202
水	91017	ケミカルサイエンス序論 (前)	1	村嶋貴之	210
	91043	★ 有機電子論 (D期)(後)	1	村嶋貴之	210
	91045	★ 構造有機化学 (C期)(後)	1	甲元一也	210
	91028	★ 細胞工学 (D期)(後)	2	西方敬人	201
	91036	★ 生物無機化学 (C期) (後)	2	藤井敏司	201
	91044	★ 有機反応各論 (A期)(前)	2	松井 淳	201
	91046	★ 有機化学と分光法 (B期)(前)	2	藤井敏司	201
	91030	★ 発生学 (B期)(前)	3	西方敬人	202
	91031	★ 電気化学 (A期)(前)	3	赤松謙祐	202
木	91015	ナノサイエンス序論 (前)	1	赤松謙祐	210
	91033	★ 無機化学 (C期)(後)	1	藤井敏司	210
	91034	★ 量子物理化学 (D期)(後)	1	鶴岡孝章	210
	91032	★ 固体光化学 (A期)(前)	2	鶴岡孝章	201
	91035	★ ナノテクノロジー (B期)(前)	2	高嶋洋平	201
	91038	★ 高分子化学 (C期)(後)	2	長濱宏治	201
	91047	★ 生物有機化学 (D期)(後)	2	甲元一也	201
	91041	★ 生体分子工学 (A期)(前)	3	三好大輔	202
	91048	★ 有機合成化学 (B期)(前)	3	村嶋貴之	202
	91054	医療テクノロジー (後)	3	甲元一也、深瀬浩一	202
金	91051	★ アドバンストマテリアル (D期)(後)	2	鶴岡孝章、林 高史	201
	91066	科学と情報技術 (前)	2	村井 均	201
	91013	安全倫理工学 (後)	3	内藤正巳	202
	91049	★ ケミカルバイオロジー (B期)(前)	3	三好大輔	202

3限 (13:00～14:30)

	授業コード	授業科目名	配当年次	担当者	教室
月	91002	科学英語コミュニケーション1 (前)	1	西方敬人	210
	91012	日本語表現及び演習 (後)	1	安井寿枝	→
	91003	科学英語コミュニケーション2 (前)	2	中野修一	201
	91007	プレゼンテーション演習2 (後)	2	甲元一也、臼井健二	601
	91004	科学英語コミュニケーション 3(前)	3	赤松謙祐	202
	91008	プレゼンテーション演習3 (後)	3	藤井敏司、川内敬子	602
火	91018	ナノバイオラボベーシックA (前)	1	甲元一也、村嶋貴之	→
				藤井敏司、中野修一	204
				長濱宏治、臼井健二	205
				川内敬子	206
	91019	ナノバイオラボベーシックB (後)	1	西方敬人、川上純司	→
				松井 淳、赤松謙祐	
				三好大輔、鶴岡孝章	
				高嶋洋平	
	91056	メディカルバイオテクノロジー (後)	2	長濱宏治、水谷健一	201
	91022	★ ナノバイオラボ2A (前)	3	川上純司、西方敬人	→
				村嶋貴之、松井 淳	
				藤井敏司、赤松謙祐	
				中野修一、三好大輔	
				甲元一也、長濱宏治	
				臼井健二、鶴岡孝章	204
				川内敬子、高嶋洋平	205
	91023	★ ナノバイオラボ2B (後)	3	藤井敏司、西方敬人	206
				川上純司、村嶋貴之	→
				松井 淳、赤松謙祐	
				中野修一、三好大輔	
				甲元一也、長濱宏治	
				臼井健二、鶴岡孝章	
				川内敬子、高嶋洋平	
水	91020	★ ナノバイオラボ1A (前)	2	川上純司、村嶋貴之	→
				藤井敏司、中野修一	
				甲元一也、臼井健二	204
				川内敬子	205
	91021	★ ナノバイオラボ1B (後)	2	赤松謙祐、西方敬人	206
				松井 淳、三好大輔	→
				長濱宏治、鶴岡孝章	
				高嶋洋平	
	91022	★ ナノバイオラボ2A (前)	3	川上純司、西方敬人	→
				村嶋貴之、松井 淳	
				藤井敏司、赤松謙祐	
				中野修一、三好大輔	
				甲元一也、長濱宏治	
				臼井健二、鶴岡孝章	204
				川内敬子、高嶋洋平	205
	91023	★ ナノバイオラボ2B (後)	3	藤井敏司、西方敬人	206
				川上純司、村嶋貴之	→
				松井 淳、赤松謙祐	
				中野修一、三好大輔	
				甲元一也、長濱宏治	
				臼井健二、鶴岡孝章	
				川内敬子、高嶋洋平	
木	91001	フロントランナー講座 (後)	1	西方敬人、宇野兵衛	210
				市川典男、山川 晃	
				塚田 裕、上村多恵子	
				新田長彦、中西伸浩	
	91020	★ ナノバイオラボ1A (前)	2	川上純司、村嶋貴之	→
				藤井敏司、中野修一	
				甲元一也、臼井健二	204
				川内敬子	205
	91021	★ ナノバイオラボ1B (後)	2	赤松謙祐、西方敬人	206
				松井 淳、三好大輔	→
				長濱宏治、鶴岡孝章	
				高嶋洋平	
	91022	★ ナノバイオラボ2A (前)	3	川上純司、西方敬人	→
				村嶋貴之、松井 淳	
				藤井敏司、赤松謙祐	
				中野修一、三好大輔	
				甲元一也、長濱宏治	
				臼井健二、鶴岡孝章	204
				川内敬子、高嶋洋平	205
	91023	★ ナノバイオラボ2B (後)	3	藤井敏司、西方敬人	206
				川上純司、村嶋貴之	→
				松井 淳、赤松謙祐	
				中野修一、三好大輔	
				甲元一也、長濱宏治	
				臼井健二、鶴岡孝章	
				川内敬子、高嶋洋平	
金	F1901	◆ 基礎体育学演習(FIRST)(前)	1	吉本忠弘	→
	91006	プレゼンテーション演習1 (後)	1	松井 淳	210

4限 (14:40～16:10)

	授業コード	授業科目名	配当年次	担当者	教室
月	55A91	ベーシック・キャリアデザイン (FIRST)(前)	1	中野修一、武田佳久	210
				→	210
	91005	科学英語コミュニケーション4(前)	4	川上純司、西方敬人	201
				村嶋貴之、松井 淳	
				藤井敏司、赤松謙祐	
				中野修一、三好大輔	
				甲元一也、長濱宏治	
				臼井健二、鶴岡孝章	
				川内敬子、高嶋洋平	
	91009	プレゼンテーション演習4 (後)	4	川上純司、西方敬人	
				村嶋貴之、松井 淳	
				藤井敏司、赤松謙祐	
				中野修一、三好大輔	
				甲元一也、長濱宏治	
				臼井健二、鶴岡孝章	
				川内敬子、高嶋洋平	
火	91065	科学と健康 (後)	2	曽我部晋哉	201
水	91027	★ 生化学 (C期) (後)	1	臼井健二	210
	91040	★ 生命分析化学 (D期)(後)	1	三好大輔	210

5限 (16:20～17:50)

	授業コード	授業科目名	配当年次	担当者	教室

集中講義

授業コード	授業科目名	配当年次	担当者
91053	★ メディカルサイエンス概論 (A期(前)・集中)	2	藤井敏司、三宅正人
91067	科学とエネルギー・環境	2	川嶋文人
91068	科学と芸術・哲学	2	越智裕二郎
91052	先端情報テクノロジー	3	長門石曉
91055	★ 創薬テクノロジー (A期(前)・集中)	3	川上純司、二木史朗
91058	医療関連研究開発論	3	勝二郁夫、神原秀記
91060	ナノ・材料関連研究開発論	3	塚田 裕
91070	科学と産業政策	3	松井 淳、川上純司 笹島 靖
91064	インターンシップ(2014年度入学生用)	2	中野修一
91024	★ ナノバイオ卒業研究	4	川上純司、西方敬人 村嶋貴之、松井 淳 藤井敏司、赤松謙祐 中野修一、三好大輔 甲元一也、長濱宏治 臼井健二、鶴岡孝章 川内敬子、高嶋洋平

※2014年度(平成26年度)、2013年度(平成25年)入学生のみ履修できる集中講義

授業コード	授業科目名	配当年次	担当者
Q3001	エリアスタディーズⅠ(集中)	1	小西幸男
Q3002	エリアスタディーズⅡ(集中)	1	西川耕平
Q3004	エリアスタディーズⅢ(2クラス)(集中)	1	小西幸男
Q3005	エリアスタディーズⅣ(集中)	1	東谷 智

2013年度以前入学生用

【時間割表についての注意事項】

授業コードは、授業個別のコードです。履修登録に必要な場合があります。

授業科目名の後ろについている(前)は、前期、(後)は、後期、何もついていないのは、通年科目を表しています。(別紙授業科目一覧表に曜日・時限を表記)

配当年次は、履修できる学年を表し、自分の年次以下の科目を履修できます。

表中の◆は、受講するクラスが指定されており、あらかじめ自動的に履修登録されている科目を、★は、週に2回以上講義がある科目を表しています。

クォーター科目は、A期(4月～ 5月)・B期(6月～ 7月)・C期(9月～11月)・D期(11月～ 1月)に分かれており、授業科目名には、(A期)・(B期)・(C期)・(D期)と記載されています。

集中講義の日程は、別途「My KONAN」や掲示板でお知らせします。

【授業時間帯】
1時限目： 9:00 ～ 10:30
2時限目： 10:40 ～ 12:10
3時限目： 13:00 ～ 14:30
4時限目： 14:40 ～ 16:10
5時限目： 16:20 ～ 17:50

月

1限 (9:00～10:30)

授業コード	授業科目名	配当年次	担当者	教室
91043	★ 有機電子論 (D期)(後)	1	村嶋貴之	210
91044	★ 有機反応各論 (A期)(前)	1	松井 淳	201
91045	★ 構造有機化学 (C期)(後)	1	甲元一也	210
91046	★ 有機化学と分光法 (B期)(前)	1	藤井敏司	201
91028	★ 細胞工学 (D期)(後)	2	西方敬人	201
91030	★ 発生学 (B期)(前)	2	西方敬人	201
91031	★ 電気化学 (A期)(前)	2	赤松謙祐	202
91036	★ 生物無機化学 (C期) (後)	2	藤井敏司	201

2限 (10:40～12:10)

授業コード	授業科目名	配当年次	担当者	教室
91011	英語及び演習	1	柴田英智	210
91037	★ 生命物理化学 (A期)(前)	1	中野修一	201
91039	★ バイオ計測工学 (B期)(前)	2	中野修一	201
91057	企業戦略・テクノロジー概論 (後)	2	亀野兵衛	201
91049	★ ケミカルバイオロジー (B期)(前)	3	三好大輔	202
91063	国際産学コーディネーター (後)	3	Manoj L. SHRESTHA	202

3限 (13:00～14:30)

授業コード	授業科目名	配当年次	担当者	教室
91002	科学英語コミュニケーション1 (前)	1	西方敬人	210
91012	日本語表現及び演習 (後)	1	安井寿枝	→ 210
91003	科学英語コミュニケーション2 (前)	2	中野修一	201
91007	プレゼンテーション演習2 (後)	2	甲元一也、臼井健二	601
91004	科学英語コミュニケーション 3(前)	3	赤松謙祐	202
91008	プレゼンテーション演習3 (後)	3	藤井敏司、川内敬子	602

4限 (14:40～16:10)

授業コード	授業科目名	配当年次	担当者	教室
55A91	ベーシック・キャリアデザイン (FIRST)(前)	1	中野修一、武田佳久	210
			→	210
91005	科学英語コミュニケーション4(前)	4	川上純司、西方敬人	201
			村嶋貴之、松井 淳	
			藤井敏司、赤松謙祐	
			中野修一、三好大輔	
			甲元一也、長濱宏治	
			臼井健二、鶴岡孝章	
			川内敬子、高嶋洋平	
91009	プレゼンテーション演習4 (後)	4	川上純司、西方敬人	
			村嶋貴之、松井 淳	
			藤井敏司、赤松謙祐	
			中野修一、三好大輔	
			甲元一也、長濱宏治	
			臼井健二、鶴岡孝章	
			川内敬子、高嶋洋平	

5限 (16:20～17:50)

授業コード	授業科目名	配当年次	担当者	教室

火

1限 (9:00～10:30)

授業コード	授業科目名	配当年次	担当者	教室
91033	★ 無機化学 (C期)(後)	1	藤井敏司	210
91034	★ 量子物理化学 (D期)(後)	1	鶴岡孝章	210
91038	★ バイオ高分子化学 (C期)(後)	1	長濱宏治	201
91032	★ 半導体・デバイス科学 (A期)(前)	2	鶴岡孝章	201
91035	★ ナノテクノロジー (B期)(前)	2	高嶋洋平	201
91047	★ 生物有機化学 (D期)(後)	2	甲元一也	201
91048	★ 有機合成化学 (B期)(前)	2	村嶋貴之	202
91041	★ 生命化学1 (A期)(前)	3	三好大輔	202

2限 (10:40～12:10)

授業コード	授業科目名	配当年次	担当者	教室
91025	★ 分子生物学 (C期)(後)	1	川内敬子	210
91026	★ 遺伝子工学・バイオテクノロジー (D期)(後)	2	川上純司	210
91029	★ 薬理学 (B期)(前)	2	川上純司	201
91059	バイオ・食品関連研究開発論 (後)	2	岡 茂範	201
91042	★ 生命化学2 (A期)(前)	3	長濱宏治	201
91061	知財マネジメント (後)	3	藤田典彦	202
91069	科学と歴史・文学 (前)	3	大津真作	202

3限 (13:00～14:30)

授業コード	授業科目名	配当年次	担当者	教室
91018	ナノバイオラボベーシックA (前)	1	甲元一也、村嶋貴之	
			→ 藤井敏司、中野修一	204
			長濱宏治、臼井健二	205
			川内敬子	→ 206
91019	ナノバイオラボベーシックB (後)	1	西方敬人、川上純司	
			松井 淳、赤松謙祐	
			三好大輔、鶴岡孝章	
			高嶋洋平	
91056	メディカルバイオテクノロジー (後)	2	長濱宏治、水谷健一	201
91022	★ ナノバイオラボ2A (前)	3	川上純司、西方敬人	
			村嶋貴之、松井 淳	
			藤井敏司、赤松謙祐	
			中野修一、三好大輔	→
			甲元一也、長濱宏治	
			臼井健二、鶴岡孝章	204
			川内敬子、高嶋洋平	205
91023	★ ナノバイオラボ2B (後)	3	藤井敏司、西方敬人	206
			川上純司、村嶋貴之	
			松井 淳、赤松謙祐	
			中野修一、三好大輔	→
			甲元一也、長濱宏治	
			臼井健二、鶴岡孝章	
			川内敬子、高嶋洋平	

4限 (14:40～16:10)

授業コード	授業科目名	配当年次	担当者	教室
91065	科学と健康 (後)	2	曽我部晋哉	201

5限 (16:20～17:50)

授業コード	授業科目名	配当年次	担当者	教室

水

1限 (9:00～10:30)

授業コード	授業科目名	配当年次	担当者	教室
91016	ナノバイオサイエンス序論 (前)	1	三好大輔	210
91027	★ 生化学 (C期) (後)	1	臼井健二	210
91037	★ 生命物理化学 (A期)(前)	1	中野修一	201
91039	★ バイオ計測工学 (B期)(前)	2	中野修一	201
91040	★ 生命分析化学 (D期)(後)	2	三好大輔	210
91050	★ バイオセンシングと環境 (C期)(後)	2	松井 淳	201
91051	★ アドバンストマテリアル (D期)(後)	2	鶴岡孝章、林 高史	201
91055	★ 創薬テクノロジー (A期(前)・集中)	3	川上純司、二木史朗	202
91062	シーズ／ニーズマッチング (後)	3	荻野千秋	202

2限 (10:40～12:10)

授業コード	授業科目名	配当年次	担当者	教室
91017	ケミカルサイエンス序論 (前)	1	村嶋貴之	210
91043	★ 有機電子論 (D期)(後)	1	村嶋貴之	210
91044	★ 有機反応各論 (A期)(前)	1	松井 淳	201
91045	★ 構造有機化学 (C期)(後)	1	甲元一也	210
91046	★ 有機化学と分光法 (B期)(前)	1	藤井敏司	201
91028	★ 細胞工学 (D期)(後)	2	西方敬人	201
91030	★ 発生学 (B期)(前)	2	西方敬人	202
91031	★ 電気化学 (A期)(前)	2	赤松謙祐	202
91036	★ 生物無機化学 (C期) (後)	2	藤井敏司	201

3限 (13:00～14:30)

授業コード	授業科目名	配当年次	担当者	教室
91020	★ ナノバイオラボ1A (前)	2	川上純司、村嶋貴之	
			藤井敏司、中野修一	→
			甲元一也、臼井健二	204
			川内敬子	205
91021	★ ナノバイオラボ1B (後)	2	赤松謙祐、西方敬人	206
			松井 淳、三好大輔	→
			長濱宏治、鶴岡孝章	
			高嶋洋平	
91022	★ ナノバイオラボ2A (前)	3	川上純司、西方敬人	
			村嶋貴之、松井 淳	
			藤井敏司、赤松謙祐	→
			中野修一、三好大輔	
			甲元一也、長濱宏治	
			臼井健二、鶴岡孝章	204
			川内敬子、高嶋洋平	205
91023	★ ナノバイオラボ2B (後)	3	藤井敏司、西方敬人	206
			川上純司、村嶋貴之	
			松井 淳、赤松謙祐	→
			中野修一、三好大輔	
			甲元一也、長濱宏治	
			臼井健二、鶴岡孝章	
			川内敬子、高嶋洋平	

4限 (14:40～16:10)

授業コード	授業科目名	配当年次	担当者	教室

5限 (16:20～17:50)

授業コード	授業科目名	配当年次	担当者	教室

木

1限 (9:00～10:30)

授業コード	授業科目名	配当年次	担当者	教室
91014	バイオサイエンス序論 (前)	1	西方敬人	210
91025	★ 分子生物学 (C期)(後)	1	川内敬子	210
91026	★ 遺伝子工学・バイオテクノロジー (D期)(後)	2	川上純司	210
91029	★ 薬理学 (B期)(前)	2	川上純司	201
91042	★ 生命化学2 (A期)(前)	3	長濱宏治	201

2限 (10:40～12:10)

授業コード	授業科目名	配当年次	担当者	教室
91015	ナノサイエンス序論 (前)	1	赤松謙祐	210
91033	★ 無機化学 (C期)(後)	1	藤井敏司	210
91034	★ 量子物理化学 (D期)(後)	1	鶴岡孝章	210
91038	★ バイオ高分子化学 (C期)(後)	1	長濱宏治	201
91032	★ 半導体・デバイス科学 (A期)(前)	2	鶴岡孝章	201
91035	★ ナノテクノロジー (B期)(前)	2	高嶋洋平	201
91047	★ 生物有機化学 (D期)(後)	2	甲元一也	201
91048	★ 有機合成化学 (B期)(前)	2	村嶋貴之	202
91041	★ 生命化学1 (A期)(前)	3	三好大輔	202
91054	医療テクノロジー (後)	3	甲元一也、深瀬浩一	202

3限 (13:00～14:30)

授業コード	授業科目名	配当年次	担当者	教室
91001	フロントランナー講座 (後)	1	西方敬人、苧野兵衛	210
			市川典男、山川 晃	
			塚田 裕、上村多恵子	
			新田長彦、中西伸浩	
91020	★ ナノバイオラボ1A (前)	2	川上純司、村嶋貴之	
			藤井敏司、中野修一	→
			甲元一也、臼井健二	204
			川内敬子	205
91021	★ ナノバイオラボ1B (後)	2	赤松謙祐、西方敬人	206
			松井 淳、三好大輔	→
			長濱宏治、鶴岡孝章	
			高嶋洋平	
91022	★ ナノバイオラボ2A (前)	3	川上純司、西方敬人	
			村嶋貴之、松井 淳	
			藤井敏司、赤松謙祐	→
			中野修一、三好大輔	
			甲元一也、長濱宏治	
			臼井健二、鶴岡孝章	204
			川内敬子、高嶋洋平	205
91023	★ ナノバイオラボ2B (後)	3	藤井敏司、西方敬人	206
			川上純司、村嶋貴之	
			松井 淳、赤松謙祐	→
			中野修一、三好大輔	
			甲元一也、長濱宏治	
			臼井健二、鶴岡孝章	
			川内敬子、高嶋洋平	

4限 (14:40～16:10)

授業コード	授業科目名	配当年次	担当者	教室

5限 (16:20～17:50)

授業コード	授業科目名	配当年次	担当者	教室

金

1限 (9:00～10:30)

授業コード	授業科目名	配当年次	担当者	教室
F1901	◆ 基礎体育学演習(FIRST)(後)	1	吉本忠弘	→
91010	数学及び演習(前)	1	臼井健二、川上純司	→ 210
91050	★ バイオセンシングと環境 (C期)(後)	2	松井 淳	201
91053	★ メディカルサイエンス概論 (A期(前)・集中)	2	藤井敏司、三宅正人	201

2限 (10:40～12:10)

授業コード	授業科目名	配当年次	担当者	教室
91051	★ アドバンストマテリアル (D期)(後)	2	鶴岡孝章、林 高史	201
91066	科学と情報技術 (前)	2	村井 均	201
91013	安全倫理工学 (後)	3	内藤正巳	202
91049	★ ケミカルバイオロジー (B期)(前)	3	三好大輔	202

3限 (13:00～14:30)

授業コード	授業科目名	配当年次	担当者	教室
F1901	◆ 基礎体育学演習(FIRST)(前)	1	吉本忠弘	→
91006	プレゼンテーション演習1 (後)	1	松井 淳	210

4限 (14:40～16:10)

授業コード	授業科目名	配当年次	担当者	教室
91027	★ 生化学 (C期) (後)	1	臼井健二	210
91040	★ 生命分析化学 (D期)(後)	2	三好大輔	210

5限 (16:20～17:50)

授業コード	授業科目名	配当年次	担当者	教室

集中講義

授業コード	授業科目名	配当年次	担当者
91053	★ メディカルサイエンス概論 (A期(前)・集中)	2	藤井敏司、三宅正人
91067	科学とエネルギー・環境	2	川嶋文人
91068	科学と芸術・哲学	2	越智裕二郎
91052	先端情報テクノロジー	3	長門石曉
91055	★ 創薬テクノロジー (A期(前)・集中)	3	川上純司、二木史朗
91058	医療関連研究開発論	3	勝二郎夫、神原秀記
91060	ナノ・材料関連研究開発論	3	塚田 裕
91070	科学と産業政策	3	松井 淳、川上純司 笹島 靖
91064	インターンシップ(2014年度入学生用)	2	中野修一
91024	★ ナノバイオ卒業研究	4	川上純司、西方敬人 村嶋貴之、松井 淳 藤井敏司、赤松謙祐 中野修一、三好大輔 甲元一也、長濱宏治 臼井健二、鶴岡孝章 川内敬子、高嶋洋平

※2014年度(平成26年度)、2013年度(平成25年)入学生のみ履修できる集中講義

授業コード	授業科目名	配当年次	担当者
Q3001	エリアスタディーズⅠ(集中)	1	小西幸男
Q3002	エリアスタディーズⅡ(集中)	1	西川耕平
Q3004	エリアスタディーズⅢ(2クラス)(集中)	1	小西幸男
Q3005	エリアスタディーズⅣ(集中)	1	東谷 智

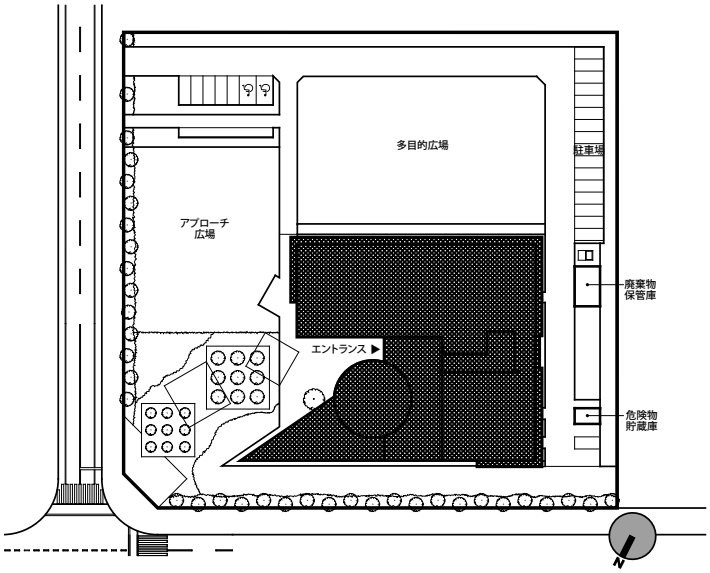
授業科目一覧表【(★) 週に２回以上講義がある科目（集中講義を含む)】

授業コード	授業科目名	曜日ー時限		
91020	ナノバイオラボ１Ａ（前）	水－3・4・5	木－3・4・5	
91021	ナノバイオラボ１Ｂ（後）	水－3・4・5	木－3・4・5	
91022	ナノバイオラボ２Ａ（前）	火－3・4・5	水－3・4・5	木－3・4・5
91023	ナノバイオラボ２Ｂ（後）	火－3・4・5	水－3・4・5	木－3・4・5
91025	分子生物学（C 期）（後）	火－2	木－1	
91026	遺伝子工学･バイオテクノロジー(D 期)(後)	火－2	木－1	
91027	生化学（C 期）（後）	水－1	金－4	
91028	細胞工学（D 期）（後）	月－1	水－2	
91029	薬理学（B 期）（前）	火－2	木－1	
91030	発生学（B 期）（前）	月－1	水－2	
91031	電気化学（A 期）（前）	月－1	水－2	
91032	半導体・デバイス科学（A 期）（前）	火－1	木－2	
91033	無機化学（C 期）（後）	火－1	木－2	
91034	量子物理化学（D 期）（後）	火－1	木－2	
91035	ナノテクノロジー（B 期）（前）	火－1	木－2	
91036	生物無機化学（C 期）（後）	月－1	水－2	
91037	生命物理化学（A 期）（前）	月－2	水－1	
91038	バイオ高分子化学（C 期）（後）	火－1	木－2	
91039	バイオ計測工学（B 期）（前）	月－2	水－1	
91040	生命分析化学（D 期）（後）	水－1	金－4	
91041	生命化学１（A 期）（前）	火－1	木－2	
91042	生命化学２（A 期）（前）	火－2	木－1	
91043	有機電子論（D 期）（後）	月－1	水－2	
91044	有機反応各論（A 期）（前）	月－1	水－2	
91045	構造有機化学（C 期）（後）	月－1	水－2	
91046	有機化学と分光法（B 期）（前）	月－1	水－2	
91047	生物有機化学（D 期）（後）	火－1	木－2	
91048	有機合成化学（B 期）（前）	火－1	木－2	
91049	ケミカルバイオロジー（B 期）（前）	月－2	金－2	
91050	バイオセンシングと環境（C 期）（後）	水－1	金－1	
91051	アドバンストマテリアル（D 期）（後）	水－1	金－2	
91053	メディカルサイエンス概論(A 期(前)･集中)	金－1	集中	
91055	創薬テクノロジー（A 期（前）・集中）	水－1	集中	

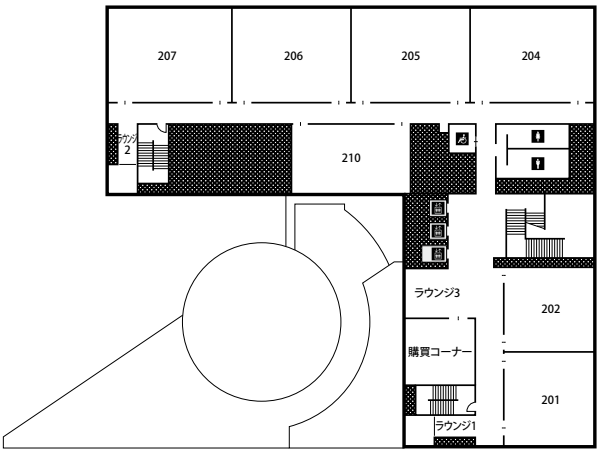
※配当年次は入学年度によって異なりますので、31ページの専門教育科目表を確認して下さい。

Ⅵ. ポートアイランドキャンパス
Ｆ－1号館フロアマップ
岡本キャンパスマップ

ポートアイランドキャンパス



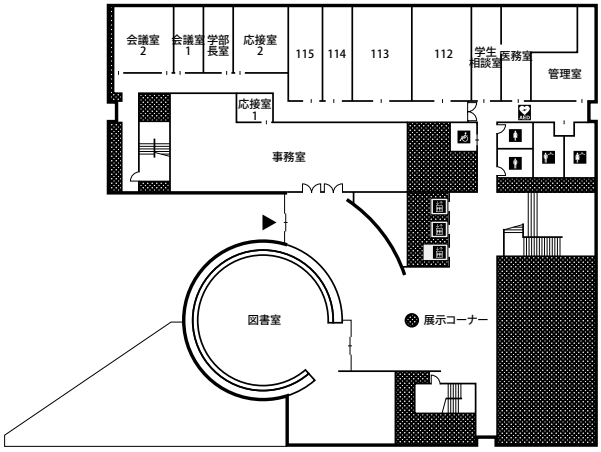
SITE



201･202 講義室
204-206 高大連携実験室
207 共通測定室
210 講義室

購買コーナー
ラウンジ 1･2･3

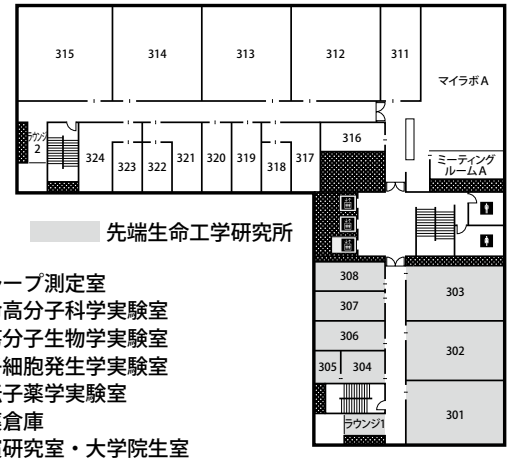
2F



図書室
学部長室
事務室
会議室 1･2
応接室 1･2

医務室
学生相談室
管理室
112-115 共通測定室

1F

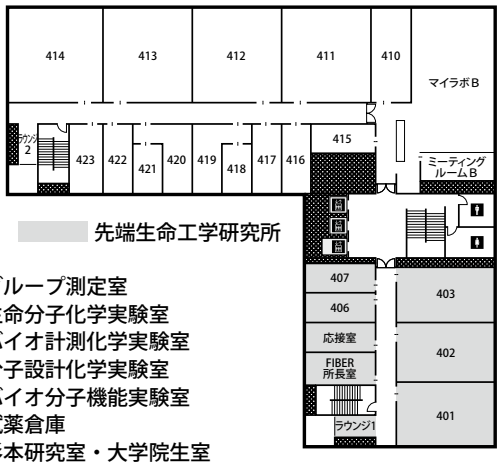


先端生命工学研究所

311 グループ測定室
312 生命高分子科学実験室
313 腫瘍分子生物学実験室
314 分子細胞発生学実験室
315 遺伝子薬学実験室
316 試薬倉庫
317･318 長濱研究室・大学院生室
319･320 川内研究室・大学院生室
321･322 西方研究室・大学院生室
323･324 川上研究室・大学院生室
マイラボA
ミーティングルームA
ラウンジ 2

301-303 FIBER 実験室
304･305 動物実験室
306 P2 実験室
307 遠藤研究室
308 恒温実験室
ラウンジ 1

3F

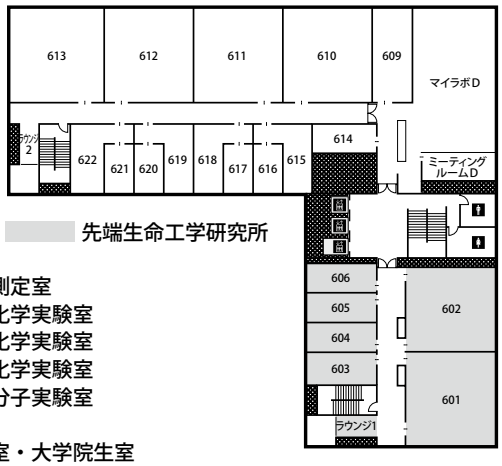


先端生命工学研究所

410　グループ測定室
411　生命分子化学実験室
412　バイオ計測化学実験室
413　分子設計化学実験室
414　バイオ分子機能実験室
415　試薬倉庫
416･417　杉本研究室・大学院生室
418･419　臼井研究室・大学院生室
420･421　三好研究室・大学院生室
422･423　中野研究室・大学院生室
マイラボB
ミーティングルームB
ラウンジ2

401-403　FIBER 実験室
FIBER 所長室
応接室
407　低温実験室
ラウンジ1

4F

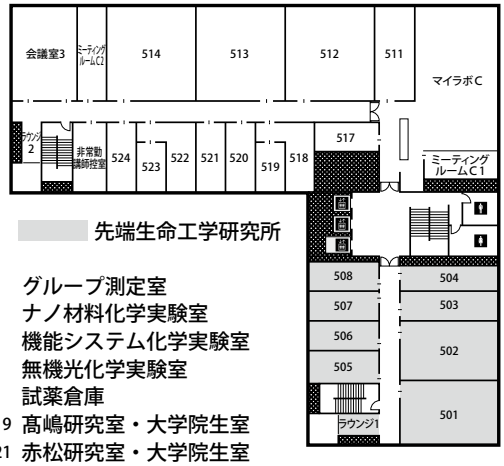


先端生命工学研究所

609　グループ測定室
610　生物有機化学実験室
611　生物無機化学実験室
612　有機合成化学実験室
613　機能性高分子実験室
614　試薬倉庫
615･616　甲元研究室・大学院生室
617･618　藤井研究室・大学院生室
619･620　村嶋研究室・大学院生室
621･622　松井研究室・大学院生室
マイラボD
ミーティングルームD
ラウンジ2

601･602　講義室
603･604　特別研究員室
605　博士研究員室
606　特別研究員室
ラウンジ1

6F

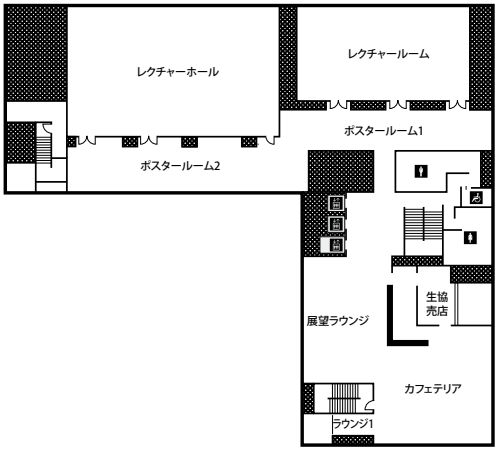


先端生命工学研究所

511　グループ測定室
512　ナノ材料化学実験室
513　機能システム化学実験室
514　無機光化学実験室
517　試薬倉庫
518･519　髙嶋研究室・大学院生室
520･521　赤松研究室・大学院生室
522･523　鶴岡研究室・大学院生室
524　研究室
非常勤講師控室
マイラボC
ミーティングルームC1･C2
会議室3
ラウンジ2

501･502　FIBER 実験室
503･504　特別研究員実験室
505　特別研究室
506　研究室
507　博士研究員室
508　FIBER 試薬倉庫
ラウンジ1

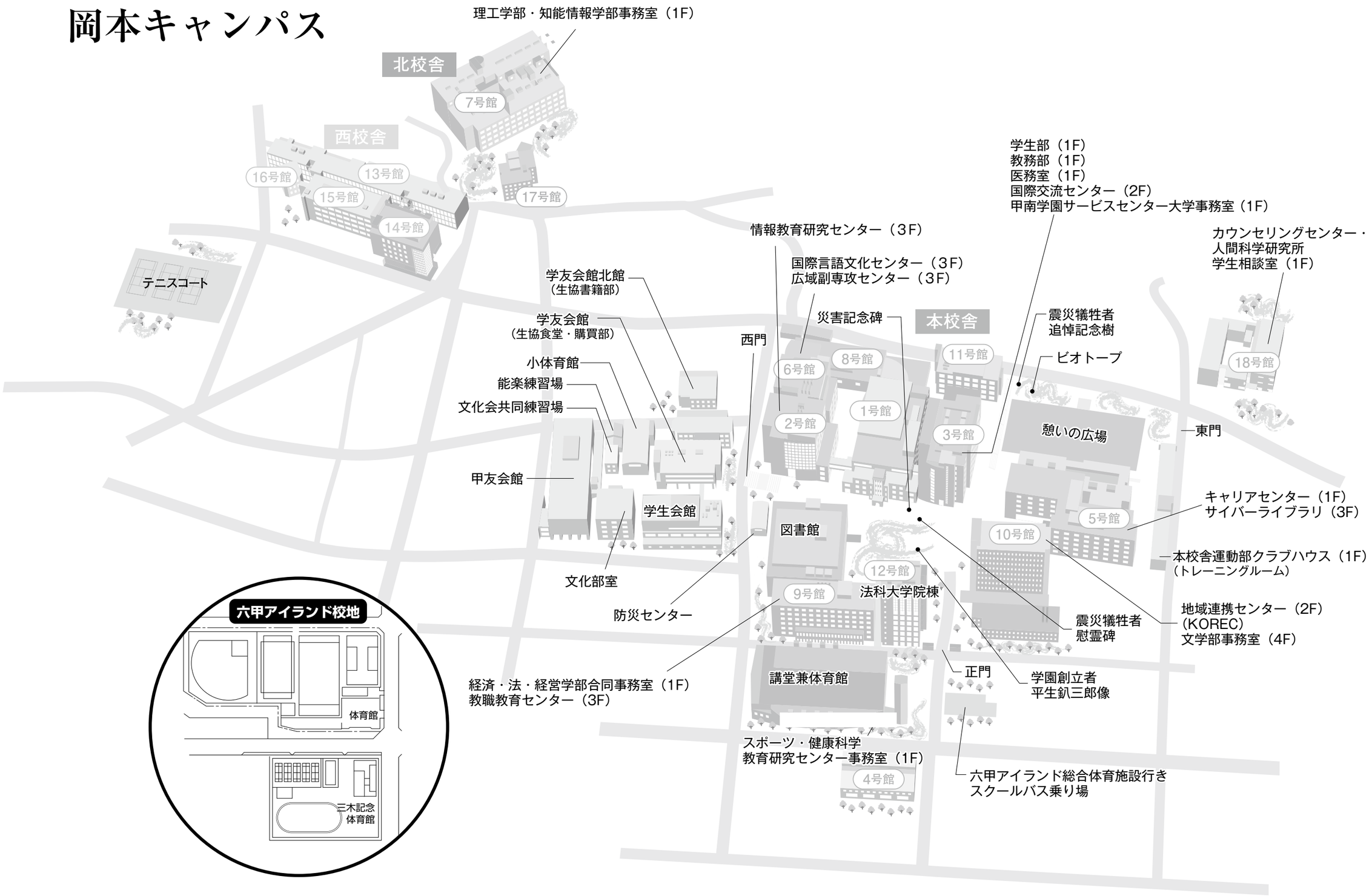
5F



レクチャーホール
レクチャールーム
ポスタールーム 1･2
カフェテリア
展望ラウンジ
生協売店

7F

岡本キャンパス


理工学部・知能情報学部事務室（1F）
北校舎
7号館
西校舎
16号館
13号館
15号館
14号館
17号館
テニスコート
学生部（1F）
教務部（1F）
医務室（1F）
国際交流センター（2F）
甲南学園サービスセンター大学事務室（1F）
情報教育研究センター（3F）
国際言語文化センター（3F）
広域副専攻センター（3F）
カウンセリングセンター・
人間科学研究所
学生相談室（1F）
学友会館北館
（生協書籍部）
学友会館
（生協食堂・購買部）
災害記念碑
本校舎
震災犠牲者
追悼記念樹
西門
小体育館
能楽練習場
文化会共同練習場
6号館
8号館
11号館
18号館
ビオトープ
1号館
2号館
3号館
憩いの広場
東門
甲友会館
学生会館
図書館
5号館
10号館
キャリアセンター（1F）
サイバーライブラリ（3F）
本校舎運動部クラブハウス（1F）
（トレーニングルーム）
12号館
9号館
法科大学院棟
文化部室
防災センター
震災犠牲者
慰霊碑
地域連携センター（2F）
（KOREC）
文学部事務室（4F）
正門
学園創立者
平生釟三郎像
講堂兼体育館
経済・法・経営学部合同事務室（1F）
教職教育センター（3F）
スポーツ・健康科学
教育研究センター事務室（1F）
4号館
六甲アイランド総合体育施設行き
スクールバス乗り場
六甲アイランド校地
体育館
三木記念
体育館

Ⅶ. 関連諸規程

学修に関する取扱い

平成26年２月13日　合同教授会改正

（授業科目の履修）

1　学生は、毎学期初めの指定された日に、履修する授業科目を登録し承認を得なければならない。指定日以後の変更は、これを認めない。

2　履修登録をしていない授業科目については、試験を受けることができない。試験を受けた場合でも単位を与えない。

3　同一授業科目を再履修することはできない。ただし、不合格となった授業科目は、履修登録すれば再履修することができる。

（学内試験及び成績）

4　学内試験を定期試験、臨時試験及び追試験に分ける。

5　定期試験とは、学期末又は学年末に行う試験をいう。

6　臨時試験とは、集中講義等による授業科目で、定期試験以外の時期に行う試験をいう。

7　追試験とは、定期及び臨時試験を受けることができなかった者で、次の各号のいずれかに該当する場合に願い出た者について行う試験をいう。なお、追試験は、各科目の試験終了後、定められた期間内に実施するものとする。

⑴　病気の場合（診断書又はそれに相当する証明書等添付）

⑵　配偶者及び２親等以内の親族死亡の場合（３日間とするが、遠隔地で死亡の場合は認められた期間）

⑶　就職試験の場合（キャリアセンター所長の証明書添付）

⑷　悪天候やストライキ等により、公共交通機関が不通あるいは大幅な延着の場合（延着証明書等添付）

⑸　大学院受験の場合（募集要項及び受験票を呈示）

⑹　不慮の事故又は災害による場合（証明書添付）

⑺　教育実習の場合（教職教育センター所長の証明書添付）

⑻　オリンピック及びこれに準ずると認められる国際競技に、選手として出場した場合（証明書添付）

⑼　その他正当な事由（証明書又は理由書添付）によって受験できなかったと教務部長が所属学部長と協議の上認めた場合

7の２　前項の追試験の希望者は、受験できなかった授業科目の試験日を含めて３日以内（第７条第４号の大幅な延着に該当する場合は、当日内）に手数料１科目につき1,000円を添えて教務部（西宮・ポートアイランドキャンパスは各事務室）に願い出なければならない。なお、受験できなかつた授業科目の試験日を含めて３日以内に願い出ができない場合は、当該期間内に教務部（西宮・ポートアイランドキャンパスは各事務室）に申し出ること。

8　学費未納者は、学内試験を受けることができない。

9　学内試験において、不正行為のあった者は、別に定める「学内試験（定期試験、臨時試験及び追試験）における不正行為に対する処置」を適用する。

10　学内試験に際しては「学内試験（定期試験、臨時試験及び追試験）の受験に関する注意事項」を守らなければならない。

11　受講を承認された授業科目の成績の評価は、次のとおりとする。

合　格　　秀（AA）　　優（A）　　良（B）　　可（C）

不合格　　不可（D）　　欠席（K）

12　各授業科目につき一度修得した単位（成績）を取り消すことはできない。

13　成績の発表は、定期試験については前期分を９月に（通年の授業科目を除く。）、後期又は学年末分を３月に学修簿及び学生ポータルサイトによつて行う。

14　成績についての問い合わせは、成績発表日を含めて５日以内とし、必ず学修簿を提示して教務部（西宮・ポートアイランドキャンパスは各事務室）に申し出ること。

（卒業資格及び在学年数）

15　本大学に４年以上在学して所定の単位を修得した者には、卒業の資格が与えられる。ただし、学士入学又は転学部した者については、以後２年以上、再入学した者については、４年から再入学前の在学年数を控除した年数以上、編入学した者については、４年から本大学で在学したとみなした年数を控除した年数以上在学することを要する。

16　本大学に在学できる年数は、８年を超えることはできない。ただし、学士入学した者については８年から２年を控除した年数とし、転学部又は再入学した者については、転学部又は再入学前の在学年数を、編入学した者については、本大学で在学したとみなした年数を８年から控除した年数とする。

（補則）

17 「授業科目の履修」第１項の履修登録の承認は、教務部長が与えるものとする。

18 「卒業資格及び在学年数」の再入学前の在学年数及び編入学した者の本大学で在学したとみなした年数とは、学部教授会で在学したものと認めた年数とする。

19 「学内試験及び成績」第７項の２の「３日以内」及び第14項の「５日以内」には、教務部（西宮・ポートアイランドキャンパスは各事務室）休室日を除く。

附　則

この取扱いは、平成19年４月１日から施行する。ただし、第11項の「秀（AA)」の評価については、平成19年度入学生から適用する。

附　則

この取扱いは、平成26年４月１日から施行する。

学内試験（定期試験、臨時試験及び追試験）の受験に関する注意事項

平成25年１月24日　合同教授会改正

１　受験資格

履修登録を提出していない科目は受験できない。

２　学生証

⑴　学生証は、試験中、机上に呈示しておくこと。

⑵　学生証のない者は、受験できない。（注を参照のこと。）

３　入退場

⑴　試験場では、監督者の提示に従うこと。

⑵　15分以上遅刻した者は、入場できない。

⑶　場内では、一机に２人宛、机の両端に座ること。特に指示があれば、その指示に従うこと。

⑷　所定の座席調査票の自分の座席欄に学部、学年、学籍番号及び氏名を記入しなければならない。

⑸　退場は、試験開始後30分経ち、かつ、監督者の指示があった後でなければならない。

⑹　試験終了時刻の10分前からは、退場できない。

⑺　入退場には、指定の出入口を使うこと。

⑻　一旦退場した者は、再入場できない。

⑼　試験終了後も、答案の回収が完了するまで入場してはならない。

４　所持品

⑴　机の上に置ける所持品は、特に持込みを認められた教科書等を除いては、学生証、仮学生証のほかに鉛筆、ペン、消しゴム、鉛筆削り、時計（計時機能だけのもの）及び眼鏡である。それ以外の所持品は、内容が見えないようにして各自の足下に置くこと。

⑵　持込みを認められたものには、あらかじめ自分の氏名を記入しておくこと。

⑶　下敷及び筆箱の使用は、認めない。

⑷　携帯電話等は試験開始前に電源を切って鞄等にしまいこみ、机上に置かないこと。

５　持ち込み

持込みについては別に定め、掲示等により周知する。

６　答案

⑴　試験開始後直ちに答案用紙に学部、学年、学籍番号、氏名等を必ずペンで記入すること。

⑵　答案の提出方法及び別刷の問題用紙の取扱いについては、監督者の指示に従うこと。

⑶　答案は、試験場外へ持ち出してはならない。

〔注〕

１　学生証を忘れた者には、学生部（西宮・ポートアイランドキャンパスは各事務室）で仮学生証を交付する。

２　仮学生証の交付は、本人の試験の開始15分前から行い、交付日のみ有効とする。

３　仮学生証には、写真登録カードが添付されているから、これは試験終了後直ちに学生部（西宮・ポートアイランドキャンパスは各事務室）へ返却しなければならない。

４　写真登録カードを返却していない者又はその提出を怠っている者には、いかなる理由があっても仮学生証を発行しない。

附　則

この注意事項は、平成25年１月24日から施行する。

学内試験（定期試験、臨時試験及び追試験）における不正行為に対する処置

平成22年12月16日　合同教授会改正

1　次の事項に該当する場合は、監督者において受験停止（当該試験無効）のうえ退場を命ずる。

⑴　監督者の指示に従わないこと。

⑵　ノート、テキスト、参考書、六法全書、辞書等を試験時間中に貸借すること。

2　次の事項に該当する場合は、直ちに退場を命ずるとともに、当該学期の試験時間割にある履修登録授業科目を全科目無効とし、その成績評価は行わない。場合によっては、甲南大学学則による処分をすることがある。

⑴　代人として受験すること、又は代人に受験させること。

⑵　許可されていないノート、テキスト、参考書、六法全書、辞書等を参照すること。

⑶　あらかじめ机等に書き込んだり、カンニングペーパー等を用意すること（六法全書、辞書等に書き込む場合も含む。）。

⑷　他人の答案をのぞき見て写しとったり、故意に写させたりすること。

⑸　試験内容に関して私語をすること。

⑹　その他、不公正な手段を用いて受験すること。

3　前項の不正行為に関する処置は、学生部長と教務部長が学生部及び教務部両委員会の構成員と協議のうえ決定し、学生部長及び教務部長の連名で公示する。なお、特に必要な場合には、学生の属する学部の長及び指導主任の参加を求めて意見を聴くことができる。

附　則

この処置は、平成22年12月16日から施行する。

私鉄のストライキ、台風等の場合の授業及び試験の取扱い

平成22年９月３日　合同教授会改正

私鉄のストライキ、台風等の場合の授業及び試験の取扱いは、次のとおりとする。

１　午前７時までに、ストライキが解決されたとき、又は暴風警報が解除されたときは、平常どおり授業及び試験を行う。

２　午前11時までに、ストライキが解決されたとき、又は暴風警報が解除されたときは、３時限目からの授業及び試験を行い、午前11時を過ぎても、解決又は解除されないときは、授業及び試験を行わない。

３　暴風警報が授業時間中に発令されたときは、発令以降休講とし、試験時間中に発令されたときは、教務部長の判断により措置する。

〔注〕

⑴　上記の「私鉄のストライキ」とは、西日本旅客鉄道株式会社線の京都・西明石間又は阪急電鉄株式会社線において、電車の運行が全面的に停止、又はこれに準ずる場合を基準とする。なお、この基準に基づいて授業及び試験の実施について判断を必要とする場合は、学長が教務部長と協議の上、決定する。

⑵　暴風警報は、別表にあるいずれかの市町村に発令された場合とする。

附　則

この取扱いは、平成22年９月３日から施行する。

別　表

	地域	市町村
兵庫県	阪神	神戸市、尼崎市、西宮市、芦屋市、伊丹市、宝塚市、川西市、三田市、猪名川町

学 籍 関 係 の 取 扱 方

昭和62年６月25日　合同教授会改正

（除籍）

1　授業料その他の学費を学費納付規程に定められた期限内に納入しないときは、除籍の処分を受け、本大学学生の身分を失う。

2　在学期間が８年を超える者は、除籍する。

（復籍）

3　授業料その他の学費の納付を怠り、除籍された者が除籍の日付から１年以内に復籍を願い出たときは、審議の上許可する。

（休学）

4　疾病その他やむを得ない理由で６箇月以上就学できない者は、所定の様式により休学願を提出し、許可を得て休学することができる。休学の期間は、引き続き２年以内、通算して４年以内とし、休学の期間は、これを在学期間に算入しない。

（復学）

5　休学の理由が消滅し、休学期間中に復学を希望する者は、所定の様式により復学願を提出し、許可を得て復学することができる。

（退学）

6　疾病その他やむを得ない理由で退学しようとする者は、所定の様式により退学願（保証人連署）を提出し、その許可を得なければならない。

（再入学）

7　疾病その他やむを得ない理由で退学した者又は授業料その他の学費の未納による除籍後１年以上経過した者が再入学を願い出た場合は、審議の上許可することがある。ただし、再入学の時期は、学年又は学期の初めに限る。

（停学）

8　甲南大学学則第37条に規定する停学期間が３箇月以上にわたるときは、甲南大学学則第16条及び第29条に規定する在学期間に算入しない。

（留学）

9　外国留学規程により外国の大学への留学又は留学の延長を希望する者は、所定の期間内に所定の様式により留学願又は留学延長願を提出し、許可を得て留学し、又は留学を延長することができる。留学期間は、甲南大学学則第16条及び第29条に規定する在学期間に算入する。

10　外国留学規程第８条により留学又は留学の延長を辞退した者及び同規程第13条により留学又は留学の延長を取り消された者は、別段の事情がない限り、当初から留学又は留学の延長がなかったものとして取り扱う。

11　４年次において外国留学規程に基づいて留学した者の卒業期日は、帰国年度の学期末又は学年末のいずれか早い時期とする。

附　則

この取扱方は、昭和62年６月25日から施行する。

様式　略

外　国　留　学　規　程

平成22年９月30日　大学会議改正

第１条　甲南大学学則、甲南大学大学院学則、甲南大学法科大学院規則又は甲南大学会計大学院規則（以下「学則等」という。）に基づく外国の大学への留学（以下「留学」という。）に関しては、学則等に定めるもののほか、この規程の定めるところによる。

２　この規程にいう外国の大学とは、外国における正規の高等教育機関で学位授与権を有するもの、又はこれに相当する教育研究機関をいう。

第２条　留学期間は、１年以内とする。

２　前項にかかわらず特別の事情がある場合は、１回かつ１年以内に限り留学の延長を許可することができる。

第３条　留学は、次の学生に許可する。

⑴　２年次以上の学部学生

⑵　大学院学生

２　前項第１号の規定にかかわらず、１年次の学部学生であつても、留学先の学期の開始時期により、本大学の後期試験の終了日以降に留学する場合であれば、留学を許可することができる。

３　留学は、所定の留学願により指定の期間内に願い出なければならない。

４　留学延長の場合は、留学期間終了の２箇月前までに留学延長願を提出しなければならない。

第４条　留学の出願者が所属する学部の学部長、法科大学院の院長、会計大学院の院長又は研究科の科長（以下「所属学部長等」という。）は、当該留学を教育上有益と認めるときは、学部教授会、法科大学院教授会、会計大学院教授会又は研究科委員会（以下「教授会等」という。）の議を経て、これを許可する。

２　所属学部長等は、留学を許可するか否かの決定に際しては、出願者の指導主任又は研究指導教員に諮り、その意見及び協力を求めることができる。

３　所属学部長等が留学を許可したときは、その旨を学長に報告する。

４　前３項の規定は、留学延長の場合に準用する。

第５条　学生がこの規程により外国の大学において履修することができる授業科目は、原則として学則等に定める外国語科目、当該学部の専門教育科目、法科大学院の授業科目、会計大学院の授業科目又は当該研究科の授業科目に相当する科目とする。

第６条　留学期間（留学延長の場合は全留学期間。以下同じ。）が終了したときは、１箇月以内に帰学して留学報告書を提出しなければならない。

２　単位の換算を受けようとする学生は、留学報告書に添えて、換算に必要な証明書その他の書類を提出しなければならない。留学期間終了後１箇月以内にこれらの提出のないときは、単位の換算は行わない。

３　病気その他やむを得ない理由があるときは、その旨を証明する書類を添えて、前項の留学報告書及び単位の換算に必要な書類を郵送、代人による持参等により提出することができる。

４　単位の換算は、学生が外国の大学において修得した授業科目の単位数及び成績を、学則等に基づき、学部学生については60単位を限度とし各学部が定める当該年次に受講できる授業科目の単

位数の範囲内において行う。また大学院学生については10単位を限度とする。ただし、法科大学院学生については、30単位を限度とする。

第７条　単位の換算は、所属学部長等が行う。

２　所属学部長等は、単位の換算に際しては留学報告書及び換算に必要な書類を審査するほか、必要と認めるときは外国の大学に照会してこれを行う。

３　所属学部長等が単位の換算を行つたときは、その結果を学長に報告するとともに教務部及び国際交流センターに通知する。

第８条　学生が外国の大学において、留学又は留学の延長を受け入れられないとき、その受入れを取り消されたとき、又は病気その他の理由により留学の辞退を認められたときは、１箇月以内に帰学して留学辞退届を提出しなければならない。ただし、留学辞退届は、病気その他やむを得ない理由があるときは、郵送、代人による持参等により提出することができる。

第９条　留学開始の学年に学則等の規定に従い受講届を提出して承認を得た授業科目で、留学により履修できなくなるものについては、受講届を無効とする。ただし、留学開始年度において、所属学部長等の承認を得た授業科目については、帰学後、継続履修することができる。

２　帰学後、その年度において履修（継続履修を含む。）を希望する授業科目については、指定の期日までに、本人が教務部に届け出て承認を得なければならない。

第10条　この規程に定めるもののほか、外国の大学において履修することができる授業科目の種類、単位数及び履修方法の細目等については、教授会等の定めるところによる。

第11条　留学願、留学延長願、留学辞退届、留学報告書その他留学に関して学生が提出する書類は、国際交流センターに提出し、国際交流センターからこれを所属学部長等（EBA 総合コースを履修する学生が提出した書類にあってはEBA 高等教育研究所長を経て所属学部長）に送付する。

２　所属学部長等は、留学又は留学の延長を許可したとき及び留学辞退届その他の書類を受理したときは、必要な事項を関係部局に通知する。

第12条　外国の大学における学費の納付については、当該大学との協定による。

第13条　留学又は留学延長の許可を受けた学生が次の各号のいずれかに該当するときは、所属学部長等は、外国の大学との協議及び教授会等の議を経て、その許可を取り消すことがある。

⑴　留学の成果をあげる見込みがなくなったとき。

⑵　本大学学生の本分に反する行為があつたと認められるとき。

⑶　前条の学費の納付を怠ったとき。

附　則

この規程は、平成22年９月30日から施行する。

様式　略

継続履修に関する取扱い

平成16年７月13日　教務部委員会承認

Ⅰ．継続履修をする場合は、次の各号のすべての要件を備えておかなければならない。

⑴　甲南大学学則第12条の２又は甲南大学大学院学則第９条の２に基づき、留学する者であること。

⑵　前期履修後、留学し、次年度前期まで留学期間が連続すること。

⑶　通年科目であり、留学開始年度に受講届を提出し、認められていること。

⑷　同一授業科目であること。

⑸　留学前に、所属学部長又は所属研究科長に継続履修願を提出し、承認を得ていること。

⑹　帰学後、指定の期日までに、あらためて所属学部長又は所属研究科長の承認を経て、受講届を提出すること。

Ⅱ．留学前に継続履修が認められた科目であっても、開講科目、カリキュラム、講義内容等の変更により、継続履修できない場合がある。

Ⅲ．2年間連続の科目の継続履修については、上記Ⅰ－⑵の要件に関わらず、所属学部長又は所属研究科長と教務部長が協議の上、認めることができる。

附　則

この取扱いは、平成17年４月１日から施行する。

転　学　部　規　程

平成13年３月22日　大学会議改正

第１条　この規程は、甲南大学学則に基づき、転学部について必要な事項を定める。

第２条　転学部の願い出は、１学部１学科に限る。

第３条　転学部を願い出ることができる者は、当該年度を含めて２年以上在学し、所属する学部の卒業に要する単位数のうち、次の各号に定める単位数を修得又は修得する見込みの者とする。

⑴　広域副専攻科目又は国際言語文化科目８単位、外国語科目の基礎外国語８単位、保健体育科目の基礎体育学演習２単位、計18単位以上

⑵　専門教育科目32単位以上

２　転学部を願い出た者が、前項に定める単位数を修得できなかった場合は、その願い出は無効とする。

第４条　転学部を許可する時期は、学年の初めとする。

第５条　転学部を願い出る者は、所定の出願書類に学業成績証明書を添え、所属する学部の学部長を経て願い出なければならない。

第６条　転学部の許可は、所属する学部の教授会、転学部を願い出た学部の教授会及び合同教授会の議を経て、学長がこれを決定する。

第７条　転学部を許可された者が、卒業資格を得るには、転学部以後２年以上在学しなければならない。

第８条　この規程に関する事務は、教務部において行う。

附　則

１　この規程は、平成13年４月１日から施行する。

２　この規程は、平成13年度入学生から適用する。

学 士 入 学 取 扱 内 規

平成19年１月18日　部局長会議改正

第１条　本大学を卒業又は卒業見込みの者で、学士入学を希望するものは、１学部に限り願い出ることができる。

第２条　出願期間は、２月19日から28日までとし、選考は、当該学部教授会において行う。

第３条　学士入学を許可された者は、７日以内に当該年度の入学金及び当該年次の学生と同額の学費を納付しなければならない。ただし、卒業と同時に入学する者の入学金は、半額とする。

第４条　入学後、前学部における専門教育科目の単位認定を希望する者は、単位認定願を提出しなければならない。この単位認定については各学部の定めた基準に基づき卒業単位に計算することができる。

第５条　考査料その他出願手続については、当該年度の大学入学生の入学受験料その他出願手続に準ずる。

附　則

この内規は、平成19年１月18日から施行する。

甲南大学フロンティアサイエンス学部卒業見込証明書の発行基準

平成24年７月12日　部局長会議承認

1　フロンティアサイエンス学部学生の卒業見込証明書は、次の各号の条件をすべて充足している者について、発行することができる。

⑴　前期に発行する場合

㈠　当該年度を含めて、在学期間が４年以上の者

㈡　ナノバイオ卒業研究の履修要件を満たしている者

⑵　後期に発行する場合

㈠　後期の履修登録単位数を含めて、卒業に必要な単位数を充足している者

2　前項各号の条件を充足していない者及び前項第1号の条件をすべて充足しているが前期履修登録終了時において卒業に支障があると認められる者については、卒業見込証明書の発行を停止する。

附　則

この基準は、平成25年４月１日から施行する。

甲南大学学費納付規程

平成18年５月26日　理事会改正

（趣旨）

第１条　甲南大学（以下「本大学」という。）の学費の納付に関しては、甲南大学学則によるほか、この規程の定めるところによる。

２　前項の学費とは、入学金、授業料、施設設備費、設備充実費、教育充実費、研究資料費、実験費、実習費、復籍料、在籍料、科目等履修料、聴講料、登録料、研修料をいう。

（新入学生）

第２条　新入学生の入学時における学費の納付については、別に定める。

（納付期日）

第３条　学費は、所定の金額を前期分及び後期分に分け、毎年前期分は、５月16日から同月31日までの間に、後期分は、10月16日から同月31日までの間に納付するものとする。

（分納）

第４条　特別の事情がある者は、本大学の承認を受けて、前条に規定する各期の納付額を次の各月の16日から31日までの間（ただし、12月は16日から20日までの間）に分納することができる。

前期分　５月、７月

後期分　10月、12月

２　前項の承認を受けようとする者は、毎学年の初め本大学が指定する期限までに、事情を具して本大学（学生部経由）に願い出なければならない。

（納付期日告示及び学費納付告知書再交付）

第５条　本大学は、前２条に規定する各納付期日開始の１週間前までに掲示をもって学費の納付を告示する。

２　学費納付告知書は、前項の掲示と同時に本大学から各学生の保証人へ郵送する。

３　前項の規定にかかわらず、第１項の掲示後１週間が過ぎても学費納付告知書が保証人に到着しなかった場合は、各自財務部において学費納付告知書の再交付を受けなければならない。これを怠ったことによって学費納付遅滞の責めを免れることはできない。

（除籍）

第６条　第３条及び第４条に規定する期間内に学費を完納しない者は、除籍する。ただし、学費納付の猶予の願い出（学生部経由）により本大学において特別の事情があると認めた者については、除籍処分を延期することがある。

（復籍）

第７条　前条の規定により除籍された者が除籍の日から１年以内に復籍を願い出て（教務部経由）許可された場合は、７日以内に当該年度の入学金相当額を復籍料として納付しなければならない。ただし、除籍日と同日付の復籍を許可された者（当該学費最終納付期日から１箇月以内に所定の復籍手続をした者）については、復籍料を免除する。

２　復籍を許可された者は、復籍日の属する月から期間計算した学費（100円未満の端数は、切上げ）を納付しなければならない。ただし、施設設備費、設備充実費及び教育充実費については、この限りでない。

３　復籍を許可された者の施設設備費、設備充実費及び教育充実費については、その者の入学年度の学生が納付すべき額とそれぞれの既納額との差額とし、その納付時期については手続時一括とする。

（休学）

第８条　休学を許可された者は、休学期間中の在籍料を納付しなければならない。ただし、その他の学費については、免除する。

（停学）

第９条　停学中の者は、学費を全額納付しなければならない。

（復学）

第10条　復学を許可された者は、その者の入学年度の学生と同額の学費を納付しなければならない。

（再入学）

第11条　再入学を許可された者は、７日以内に当該年度の入学金及び当該年次の学生と同額の学費を納付しなければならない。

２　次年度以降の学費については、当該年次の学生と同額とする。

（編入学）

第12条　編入学を許可された者は、所定の期日に当該年度の入学金及び当該年次の学生と同額の学費を納付しなければならない。

２　次年度以降の学費については、当該年次の学生と同額とする。

（学士入学）

第13条　学士入学を許可された者は、７日以内に当該年度の入学金及び当該年次の学生と同額の学費を納付しなければならない。ただし、卒業と同時に学士入学する者の入学金は、半額免除する。

２　次年度以降の学費については、当該年次の学生と同額とする。

（転学部）

第14条　転学部を許可された者は、転学部先の学費を納付しなければならない。

（学期途中の卒業）

第15条　学期の途中に卒業する者は、学期の初めの月から卒業日の属する月までの期間計算した授業料（100円未満の端数は、切上げ）を納付しなければならない。

（科目等履修料）

第16条　科目等履修生として許可された者は、所定の期日までに科目等履修料を納付しなければならない。

（聴講料）

第17条　聴講生として許可された者は、所定の期日までに聴講料を納付しなければならない。

（登録料）

第18条　研究生として許可された者は、所定の期日までに登録料を納付しなければならない。

（規程の改廃）

第19条　この規程の改廃は、大学会議の議を経て、理事会が行う。

附　則

この規程は、平成18年６月１日から施行する。

科 目 等 履 修 生 規 程

平成20年12月４日　大学会議改正

第１条　この規程は、甲南大学学則に基づき、科目等履修生について必要な事項を定める。

第２条　科目等履修生を願い出ることのできる者は、高等学校卒業者又はこれと同等以上の学力があると認められる者とする。

第３条　科目等履修生を願い出る者は、次の出願書類に科目等履修生検定料を添えて願い出なければならない。

⑴　科目等履修生出願票（写真添付）

⑵　最終学校における卒業証明書（ただし、教育職員免許等の資格取得を希望する者は、成績証明書添付）

２　本大学院学生が、科目等履修生を願い出る場合は、出願書類に指導教員の承諾書を添えなければならない。

第４条　科目等履修生を許可する時期は、学年又は学期の初めとする。

第５条　科目等履修生の許可は、当該科目を開設する教授会（広域副専攻センター、情報教育研究センター、国際交流センター及び教職教育センターにあっては運営委員会）の議に基づき、学長がこれを決定する。

第６条　科目等履修生を許可された者は、所定の期間以内に科目等履修料を納付しなければならない。

２　本大学院学生の科目等履修料は、１学年度16単位を限度とし免除することができる。

３　科目等履修料及び科目等履修生検定料は別に定める。

４　既納の科目等履修料及び科目等履修生検定料は、いかなる事情があっても返付しない。

第７条　科目等履修生が１学年度に履修することができる単位数は、32単位以内とする。

２　実験、実習、演習及び基礎外国語科目の履修は、原則として許可しない。その他の科目についても、許可しないことがある。

第８条　科目等履修生を許可された者には、科目等履修生証を交付する。

２　科目等履修生は、科目等履修生証を携帯しなければならない。

第９条　単位の認定は、試験その他適当な方法による。

２　願い出により単位修得証明書を交付する。

第10条　科目等履修生として、不適当な行為があったときは、科目等履修生の許可を取り消すことがある。

第11条　他大学との単位互換協定に基づく科目等履修生については、この現程に定める必要条項のほか、当該協定に基づくものとする。

附　則

この規程は、平成21年４月１日から施行する。

研　究　生　規　程

平成19年２月15日　大学会議改正

第１条　甲南大学学則に規定する研究生については、この規程の定めるところによる。

第２条　研究生は、本大学専任教員の指導（以下「指導教員」という。）のもとに研究を行うものとする。

第３条　研究生は、指導教員及び担当教員の許可を得て研究に関連のある開講科目の授業に出席することができる。ただし、単位は、与えないものとする。

２　在留資格の取得又は更新を要する研究生は、科目等履修生又は聴講生として、研究に関連のある開講科目の授業を、研究期間を通して週に７科目以上受講しなければならない。

第４条　研究生の研究期間は、１年以内（学年度の途中で研究生となった者は、その学年度末まで）とし、引き続き研究を行うことを希望する者は、１年以内に限り更新を出願することができる。ただし、修士の学位を有する者については、１年以内に限らない。

２　更新の出願手続については、第５条第２項第１号、第２号及び第６号の規定を準用する。

３　更新の出願の許可については、第６条第１項の規定を準用する。

第５条　研究生となることを出願する者は、大学の卒業者又はこれと同等以上の学力があると認められる者とする。

２　出願者は、指導教員の所属する学部等の学部長、国際言語文化センター所長又はスポーツ・健康科学教育研究センター所長（以下「学部長等」という。）に、次の書類を提出しなければならない。

⑴　願書（本大学所定のもの）

⑵　研究計画書（本大学所定のもの）

⑶　履歴書（写真添付）

⑷　最終学校における成績証明書及び卒業証明書

⑸　健康診断書

⑹　勤務先を有する者は、その所属長の承諾書

第５条の２　研究生の選考は、指導教員との面接、提出された研究計画書及び最終学校における成績証明書等に基づいて、指導教員の所属する当該教授会の議により行うものとする。

第６条　研究生の許可は、学年又は学期の初めとし、当該教授会の議に基づき、学長がこれを決定する。

２　研究生を辞退しようとするときは、辞退願を学部長等を経て、学長に提出しなければならない。

３　辞退願の提出を受けた場合は、学長は当該教授会の議に基づき、辞退を許可する。

第６条の２　在留資格の取得又は更新を要する研究生は、受講届を提出しなければならない。

第７条　研究生は、許可を受けた日から７日以内に、別に定める登録料を納付しなければならない。ただし、研究期間が半年の者は、半額とする。

２　在留資格の取得又は更新を要する研究生は、前項に定める登録料及び受講する科目の単位数に相当する科目等履修料又は聴講料を納付しなければならない。

既納の登録料・科目等履修料及び聴講料については、いかなる事情があっても返付しない。

第８条　研究生には、研究生証を交付する。

２　研究生は、研究生証を携帯しなければならない。

第９条　指導教員は、毎年学年度末（年度途中で研究期間が終了する者においてはその終了時まで）に研究生に研究報告書を作成させ、学部長等に提出するものとする。

第10条　研究生の身分は、別段の定めがない限り、本大学科目等履修生に準ずるものとし、懲戒処分についても同様とする。

附　則

この規程は、平成19年４月１日から施行する。

甲南大学聴講生規程

平成22年２月18日　大学会議改正

第１条　この規程は、甲南大学学則に基づき、聴講生について必要な事項を定める。

第２条　聴講生を願い出ることができる者は、満18才以上の者とする。

第３条　聴講生を願い出る者は、聴講生出願票（写真添付）に聴講生検定料を添えて願い出なければならない。

第４条　聴講生を許可する時期は、学年又は学期の初めとする。

第５条　聴講生の許可は、当該科目を開設する学部教授会（広域副専攻センター、情報教育研究センター、国際交流センター及び教職教育センターにあっては運営委員会）の議に基づき、学長がこれを決定する。

第６条　聴講生を許可された者は、所定の期間内に聴講料を納付しなければならない。

２　聴講料及び聴講生検定料は別に定める。ただし、本大学の卒業生（旧制甲南高等学校卒業生を含む。）については、聴講生検定料は免除することができる。

３　既納の聴講料及び聴講生検定料は、いかなる事情があっても返付しない。

第７条　聴講生が１学年度に聴講することができる単位数は、20単位以内とする。ただし、在留資格の取得分は更新を要する場合は、この限りではない。

２　実験、実習、演習及び基礎外国語科目の聴講は、原則として許可しない。その他の科目についても、許可しないことがある。

第８条　聴講生を許可された者には、聴講生証を交付する。

２　聴講生は、聴講生証を携帯しなければならない。

第９条　聴講生は、聴講した授業科目の試験を受けることができる。ただし、単位は付与しない。

第10条　聴講生として、不適当な行為があったときは、聴講生の許可を取り消すことがある。

附　則

この規程は、平成22年４月１日から施行する。

甲南大学大学院科目等履修生規程

平成25年１月24日　大学会議制定

（趣旨）

第１条　この規程は、甲南大学大学院学則に基づき、甲南大学大学院における大学院科目等履修生（以下「科目等履修生」という。）について必要な事項を定める。

（資格）

第２条　科目等履修生を願い出ることができる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

⑴　大学を卒業した者又はこれと同等以上の学力があると認められる者

⑵　履修しようとする授業科目について、各研究科の定めるところにより、当該授業科目を履修するに十分な学力を有すると認められる者

（入学時期）

第３条　科目等履修生を許可する時期は、学年又は学期の初めとする。

（履修許可科目及び単位数）

第４条　科目等履修生として履修を許可する授業科目は、修士課程及び会計専門職専攻（専門職学位課程）開講科目のうち、教育研究に支障のない範囲で各研究科が定めるものとし、１学年度に履修することができる単位数は、12単位以内とする。

２　実験、実習及び演習科目の履修は、原則として許可しない。その他の授業科目についても、許可しないことがある。

３　正規の大学院生の履修登録がなかった授業科目については、履修を一旦許可された授業科目でも、許可を取り消すことがある。

（出願手続）

第５条　科目等履修生を願い出る者は、次の出願書類に科目等履修生検定料を添えて、学長に願い出なければならない。

⑴　科目等履修生出願票（本大学所定用紙）

⑵　最終学校における成績証明書及び卒業（卒業見込み）証明書

⑶　健康診断書

２　本大学学部学生が、科目等履修生を願い出る場合は、前項第２号及び第３号に掲げる出願書類の提出を要しない。

（選考）

第６条　科目等履修生の許可は、当該授業科目を開設する研究科委員会の議に基づき、学長がこれを決定する。

（納付金）

第７条　科目等履修生を許可された者は、所定の期間内に科目等履修料を納付しなければならない。

２　本大学学部学生の科目等履修料は、１学年度10単位を限度とし免除することができる。

３　科目等履修生検定料及び科目等履修料は別に定める。

４　既納の科目等履修料及び科目等履修生検定料は、いかなる事情があつても返付しない。

（科目等履修生証）

第８条　科目等履修生を許可された者には、科目等履修生証を交付する。

２　科目等履修生は、科目等履修生証を携帯しなければならない。

（単位認定）

第９条　単位の認定は、試験その他適当な方法による。

２　願い出により単位修得証明書を交付する。

（科目等履修生の取り消し）

第10条　科目等履修生として、不適当な行為があつたときは、科目等履修生の許可を取り消すことがある。

（改廃）

第11条　この規程の改廃は、大学会議が行う。

附　則

この規程は、平成25年４月１日から施行する。

Ⅷ. 諸願、届、証明書の事務取扱一覧

諸願、届、証明書の事務取扱一覧

諸願等は、すべてポートアイランド事務室に提出してください。なお、岡本キャンパスでの取扱部局は下記のとおりです。

種別	取扱部局	交付または提出期	備考
学籍に関するもの			
休学願	教務部		保証人連署、病気の場合診断書添付
退学願	〃		〃　学生証添付
復籍願	〃		〃
復学願	〃		〃
再入学願	〃		〃
学士入学志願票	〃		１月上旬に掲示
転学部願	〃		12月上旬に掲示
外国留学願	国際交流センター		窓口で配付
在学証明書	教務部	邦文　当日 英文　約３日後	証明書自動発行機にて発行（邦文のみ） 無　料
学業に関するもの			
学修簿	教務部	当日	証明書自動発行機にて発行 再発行手数料　100円
追試験願	〃	当該試験日を含めて３日以内	受験手数料１科目1,000円
各種資格取得見込証明書	〃	（後期から）当日	証明書自動発行機にて発行（司書教諭は除く） 手数料 100円
各種資格単位修得証明書	〃	３日後	手数料 100円
学業成績証明書（卒業・修了見込）	〃	邦文　当日 英文　約３日後	証明書自動発行機にて発行（邦文のみ） 手数料　邦文 100円 英文 200円
調査書	〃		手数料 100円
卒業・修了証明書	〃	邦文　当日	手数料　邦文 100円 英文 200円
学籍・学業に関する上記以外の証明書	〃	邦文３日後 英文約５日後	手数料　邦文 100円 英文 200円
身上異動に関するもの			
改氏名届	学生部	その都度	証明書類の添付
住所変更届	〃	〃	
保証人に関する変更届	〃	〃	証明書類の呈示

種　　別	取扱部局	交付または提出期	備　　考
学生証等に関するもの			
学生証再発行	学生部	当日	手数料　1,000円
通学証明書	〃	当日	毎年３月の指定日に前年度通学証明書と交換
仮学生証	〃		無料（定期試験期間中のみ）
学生割引証明書	〃	当日	証明書自動発行機にて発行
学生団体旅行証明書	〃	当日	合宿・旅行届を先に提出
健康診断証明書	医務室	当日	定期健康診断を受けた４年次生に限り、受診１箇月経過後証明書自動発行機にて発行（手数料 100円）
学費に関するもの			
学費猶予願	学生部	前期５月 後期10月	案内を掲示する
日本学生支援機構ほか各種奨学金申込書	〃	―――	募集日程については掲示する
そ　の　他			
学生教育研究災害傷害保険申請書	医務室	その都度	事故発生後すみやかに学生部医務室に報告 正課中・学校行事中（通院１日以上） 通学中・施設間移動中（通院４日以上） 課外活動中（通院14日以上）
父母の会課外活動傷害見舞金申請書	〃	〃	課外活動中（通院14日未満）
盗難被害届	学生部	〃	

（注）• 上記諸願・届は取扱部局の所定用紙を使用すること。
• 各種証明書の交付には日時を要するので必ず余裕をもって申し込むこと。

各部局事務取扱時間等

キャンパス	窓口等	場所	事務取扱・開館・開室時間
ポートアイランド	ポートアイランドキャンパス事務室	F-1号館１階	〈平　日〉９：00～18：00 （講義および定期試験以外の期間は17：00まで） 〈土曜日〉９：00～13：00 〈夏期授業休止期間〉10：00～16：00
岡本	教務部	３号館１階（南側）	
	学生部	３号館１階（北側）	
	証明書自動発行機	１・３号館１階	
	国際交流センター	３号館２階	
	図書館	―	〈平　日〉９：00～21：00 （講義および定期試験以外の期間は17：00まで） 〈土曜日〉９：00～18：00 （講義および定期試験以外の期間は13：00まで） 〈夏期授業休止期間〉10：00～16：00
	サイバーライブラリ	５号館３階	〈平日・土曜日〉９：00～21：00 〈日曜日・祝日〉９：00～17：00